雪印メグミルクグループ

CSR活動報告書2016

雪印メグミルクグループ 企業理念とCSR経営

企業理念を実現するために、企業活動において、
CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、
ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、
私たちの使命とコーポレートスローガンで構成します。

私たちの使命

私たち雪印メグミルクグループは、
3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、
社会に貢献する企業であり続けます。

私たちの3つの使命

消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた
「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、
- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
- 可能な限りの情報提供、情報開示を行なうこと
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
- 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと

を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。
私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。
そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

乳(ミルク)にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「拡げていく」ことを実現していきます。

コーポレートスローガン

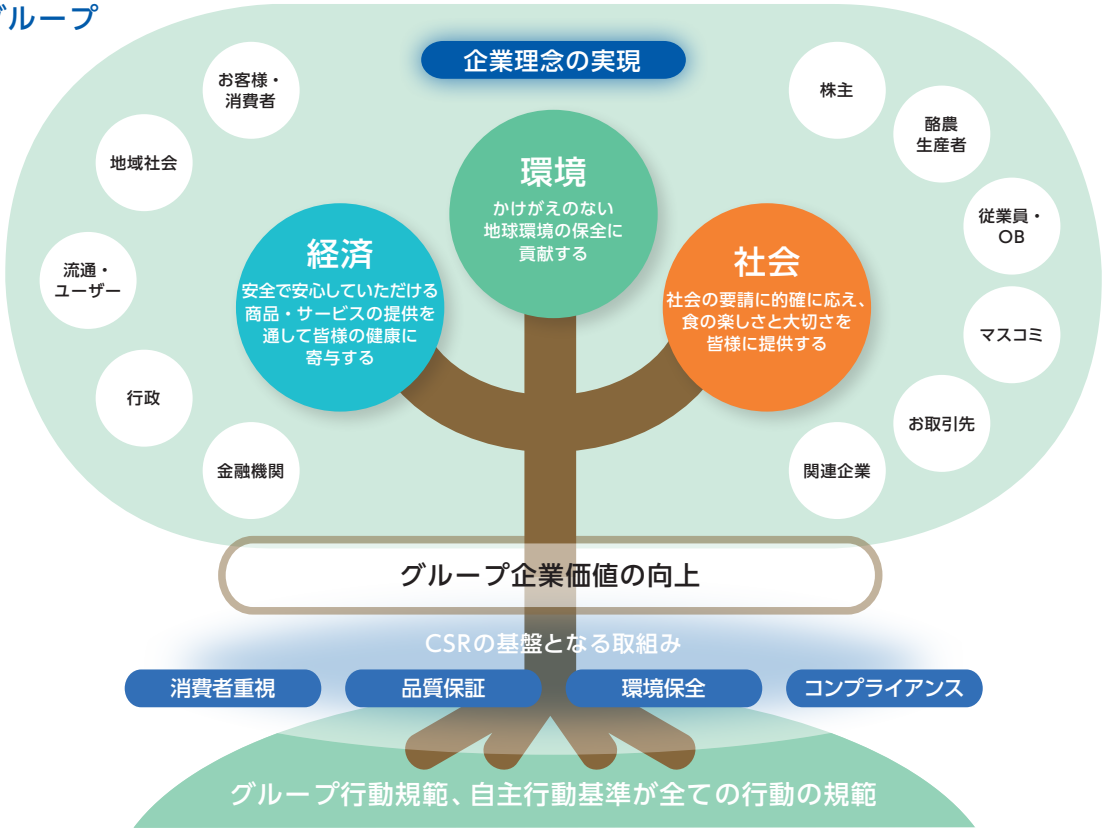
未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルクグループ CSR方針

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保(品質保証)の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外の目」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

雪印メグミルクグループ CSR概念図



3つの側面に則した取組みテーマ

経済 経済側面

主なステークホルダー
お客様・消費者、お取引先、株主

取組みテーマ
安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する

1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。

2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。

環境 環境側面

主なステークホルダー
地球環境、地域社会

取組みテーマ
かけがえのない地球環境の保全に貢献する

1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。

2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。

社会 社会側面

主なステークホルダー
お客様・消費者、酪農生産者、従業員

取組みテーマ
社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する

1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。

2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。

3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。

トップメッセージ

雪印メグミルクグループのCSR経営は、未来に向けた発想で、社会の持続的な発展に貢献していきます。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
西尾 啓治

私たち雪印メグミルクグループは、CSR経営を標榜し、グループ企業理念の実現に向けて事業活動を行っております。

CSR経営とは、時代とともに変化する社会、様々なステークホルダーの皆様からの要求に対応しながら、持続可能な社会を築いていくとともに、企業自らの長期的発展を実現していく、企業活動そのものです。

日本企業におけるCSR経営の考え方は、相次ぐ企業の不祥事もあり、コンプライアンスを中心に展開されてきました。

雪印メグミルクグループにおいても、2000年の「雪印乳業食中毒事件」、2002年の「雪印食品牛肉偽装事件」の反省に立ち、グループ行動規範や行動基準の制定、企業倫理委員会の設置、社外取締役の導入、内部通報窓口の設置など、コンプライアンス体制の確立に向けた絶え間ない努力を続けてまいりました。

これらの取組みにより、雪印メグミルクグループ各社におけるコンプライアンス体制と意識は、着実に整い向上してきていると考えています。

そして今後は、「不正はしてはいけない」というコンプライアンスをベースに置きつつも、夢や理想に向けて「正しいことをしていこう」という前向きな発想や視点も重要であると考えています。

これは、未来に向けた、社会に貢献しようとする発想、視点であり、まさしく雪印メグミルクグループ企業理念の実現につながるものであると確信しています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、3つの使命「消費者重視経営の実践」、「酪農生産への貢献」、「乳(ミルク)にこだわる」と、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」で作られています。

雪印メグミルクグループは、この企業理念の実現を通して、社会全体に貢献し続ける企業グループとして、CSR経営をさらに前進させてまいります。

編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとする全てのステークホルダーに雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2015年度に取組んだ幅広いテーマについて総括するとともに、雪印メグミルクグループの目指すべき方向性についても掲載しています。
また、従業員の想いを「私のCHALLENGE」として紹介しています。

1. わかりやすい構成・表現を心がけました

(1) 雪印メグミルクグループはCSR経営を掲げており、その活動内容をまとめて掲載しました。
(2) 説明が必要と思われる内容については、P. 47以降に補足説明を掲載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

制作段階で企業倫理委員会と、活動報告書2015アンケートで寄せられたご意見・ご要望も反映しました。

お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件(P. 50)の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。
消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解くださいますようお願いいたします。

報告対象期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)を対象期間としていますが、一部、2016年度の実績と将来目標についても掲載しています。

報告対象組織

本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ(雪印メグミルク(株)およびその関連会社)を対象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク(株)の取組みです。

参考にしたガイドライン

- GRI
  「サステナビリティレポーティングガイドライン(第4.0版)」
- 環境省
  「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ISO26000
  (社会的責任に関する手引き)

発行時期

今回の発行:2016年6月
次回の発行:2017年6月予定
- 本報告書は、年次版として毎年発行しています。

お問い合わせ先
雪印メグミルク株式会社　CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL. 03-3226-2064　FAX. 03-3226-2163

目次

01　雪印メグミルクグループ 企業理念とCSR経営
03　トップメッセージ
05　雪印メグミルクグループについて

09　特別対談　「未来は、ミルクの中にある。」私たちは、幸福な会社へと向かっていきます。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
西尾 啓治

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科
研究科委員長・教授　博士(工学)
前野 隆司 氏

私たちの3つの使命

13　消費者重視経営の実践
15　●特集 安全で安心していただける「おいしい」をお届けするために
21　酪農生産への貢献
21　●特集 酪農とともに歩む雪印メグミルクグループ
25　乳(ミルク)にこだわる
25　●特集 お客様の健康のために／～乳酸菌研究による機能性表示食品への展開～

活動報告

29　環境への取組み
35　働きがいのある会社の実現のために
37　地域・社会とのきずなを深める取組み
38　株主・投資家の皆様への情報開示

CSRマネジメント

39　コーポレート・ガバナンス
41　CSR推進に向けた取組み
44　リスクマネジメント体制

45　雪印メグミルクグループ グループ会社紹介
　　各社CSRリーダーからのメッセージ

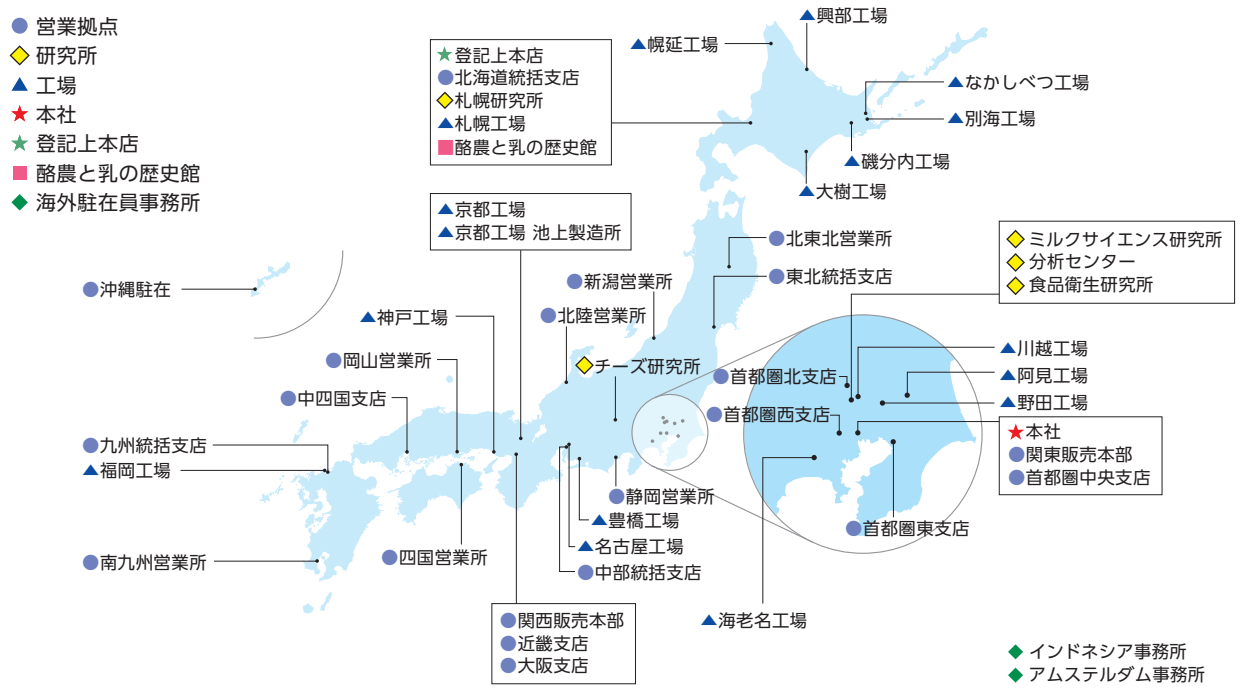
47　補足説明
　　ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比 他

51　ステークホルダーメッセージ

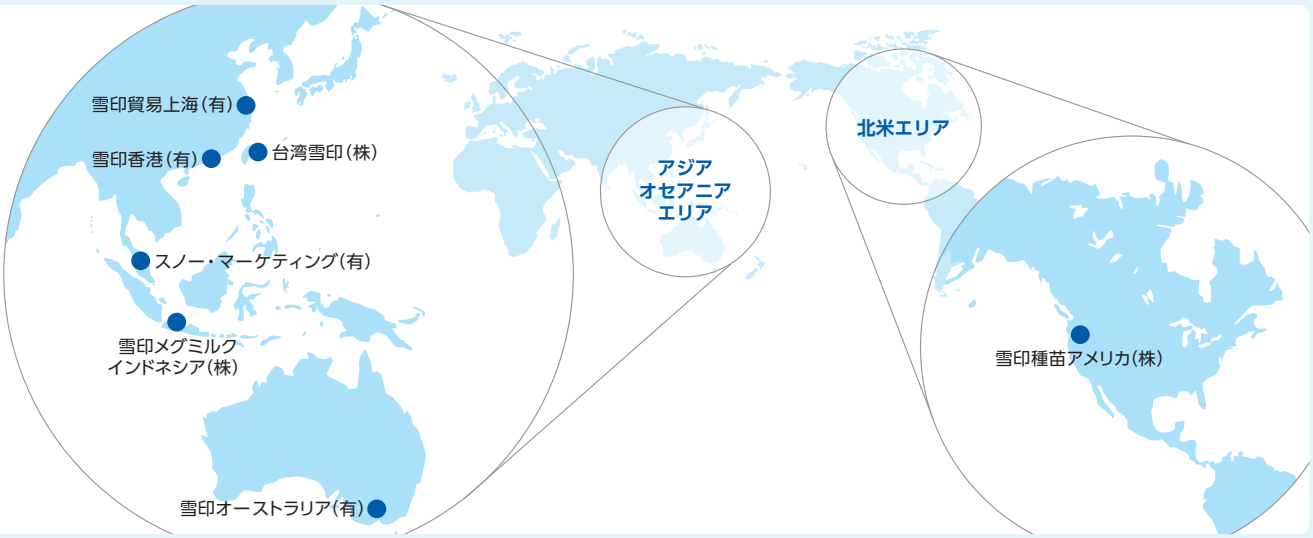
雪印メグミルクグループについて

商号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.
事業内容	牛乳、乳製品および食品の製造・販売等
本店所在地	(登記上本店) 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (本社) 東京都新宿区本塩町13番地
設立年月日	平成21年(2009年)10月1日
代表者の役職・氏名	代表取締役社長　西尾 啓治
資本金	200億円
決算期	3月31日

雪印メグミルク事業所一覧



雪印メグミルクグループ海外拠点



雪印メグミルクの沿革

雪印メグミルク(株)は、2009年10月1日、日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)が経営統合し、共同持株会社として設立しました。

そして、2011年4月1日、雪印メグミルク(株)が日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)を吸収合併し、事業会社としてスタートしました。

前身のそれぞれの会社は、酪農・農業に携わる生産者の団体を母体として生まれた歴史があります。

日本ミルクコミュニティ(株)は、全国農協直販(株)、ジャパンミルクネット(株)と雪印乳業(株)の市乳事業が統合して2003年に設立されました。おもに、牛乳・乳飲料、はっ酵乳、デザートの製造・販売を行なっていました。

そして、もう一つの前身企業である雪印乳業(株)は、1925年、北海道の酪農民が出資して「有限責任　北海道製酪販売組合」を創立したことに始まります。酪農家が生産した生乳をバターなどの乳製品に加工し、販売していました。

雪印メグミルクグループのルーツは、日本の酪農そのものにあり、90年にわたり常に日本の酪農とともに歩んできました。

この長い歴史の中で、ミルクに向き合い、その可能性と価値を「深め」、「高め」、「拡げていく」ことを実践してきました。そして、商品を通して日本の消費者のくらしと生産者をつないできました。

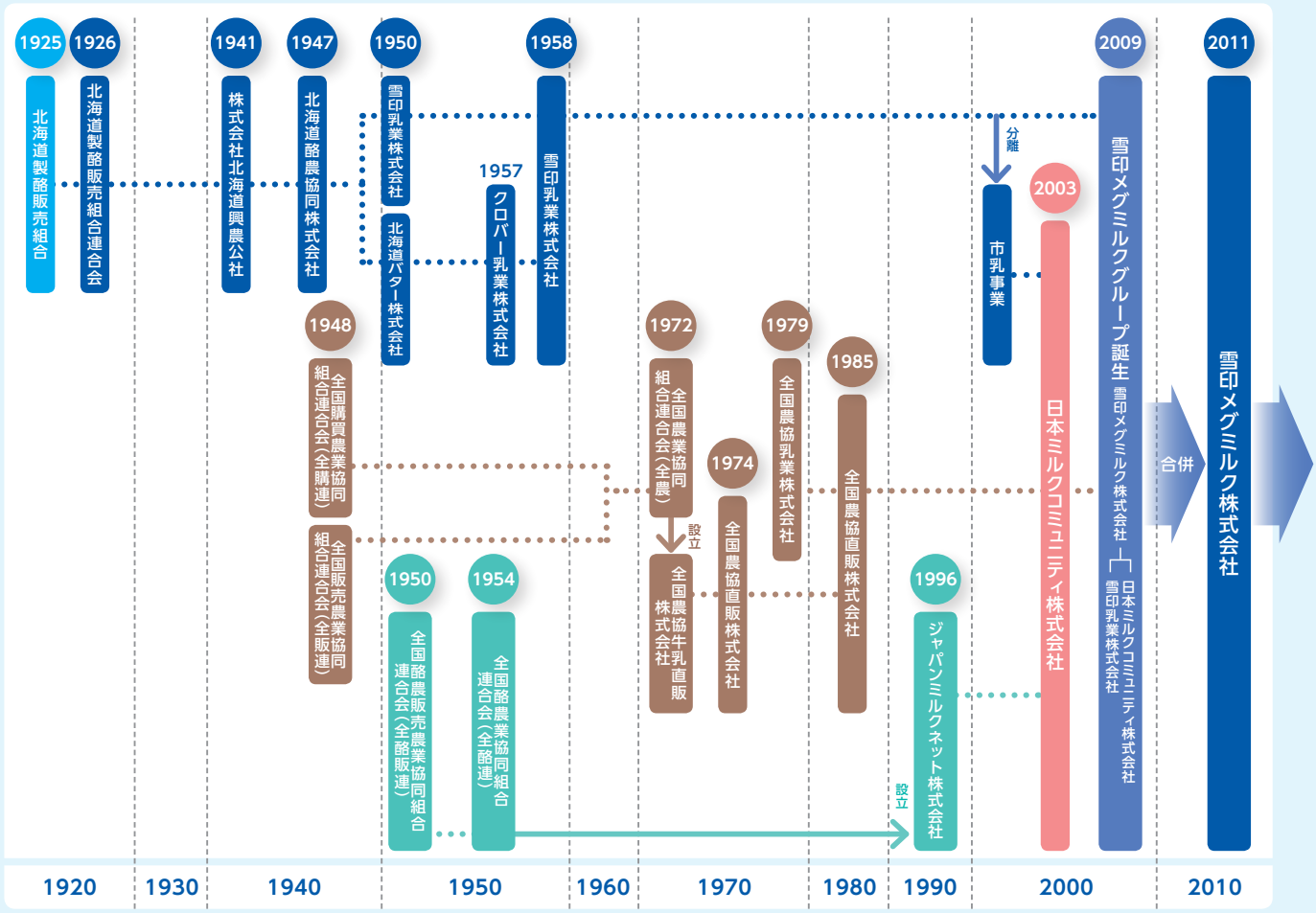
雪印乳業(株)とその子会社の雪印食品(株)による2つの事件(2000年6月「雪印乳業食中毒事件」、2002年1月「雪印食品牛肉偽装事件」)は、食の安全・安心を揺るがす大きな事件でした。そのことを真摯に受け止め、雪印乳業(株)とそのグループ各社はCSR経営の確立に向け取組んでまいりました。

その取組みは、雪印メグミルクグループ各社に受け継がれ、実践してまいりました。

これからも、お客様から安全で安心していただける商品の供給を通して、食に携わるものとしての責任を果たしていきます。

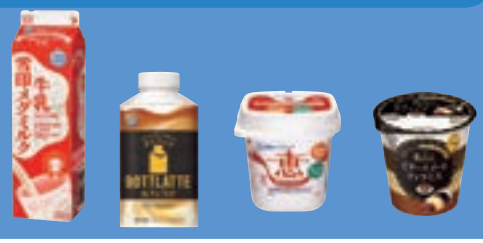
2つの事件について　PAGE 50

雪印メグミルクの歴史

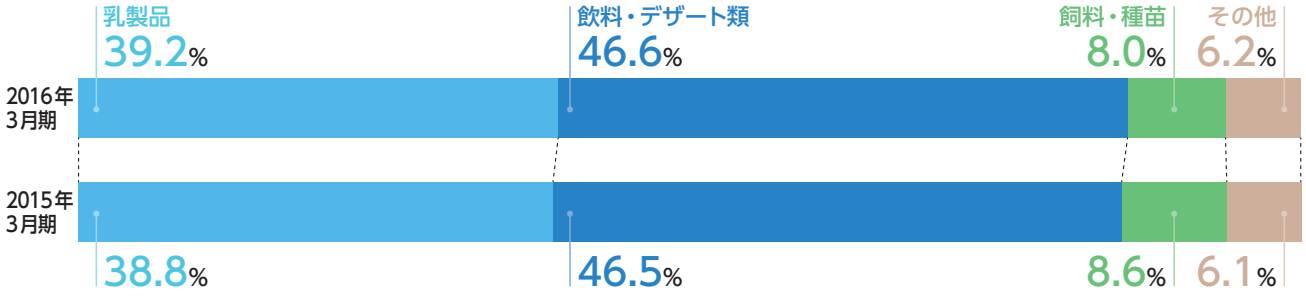


事業内容について

事業内容および事業の種類別セグメントは、下表のとおりです。

	主な製品	会社
乳製品事業	●乳製品 （チーズ・バター・粉乳等） ●油脂（マーガリン等） ●育児品 （乳児用粉乳等）	雪印メグミルク(株) ／ 雪印ビーンスターク(株) ／ 八ヶ岳乳業(株) ／ 甲南油脂(株) ／ チェスコ(株) ／ (株)エスアイシステム ／ 雪印オーストラリア(有) ／ 台湾雪印(株) ／ 三和流通産業(株) ／ イーエヌ大塚製薬(株) ／ 協同乳業(株) （合計11社）
飲料・デザート類事業 	●飲料 （牛乳類、果汁飲料等） ●ヨーグルト、デザート類	雪印メグミルク(株) ／ 八ヶ岳乳業(株) ／ (株)エスアイシステム ／ いばらく乳業(株) ／ みちのくミルク(株) ／ 三和流通産業(株) ／ 協同乳業(株) （合計7社）
飼料・種苗事業	●牛用飼料、 牧草・飼料作物種子 ●野菜種子等	雪印種苗(株) ／ 道東飼料(株) （合計2社）
その他事業	●不動産賃貸 ●共同配送センター事業等	雪印メグミルク(株) ／ (株)クレスコ ／ (株)雪印パーラー ／ (株)YBS ／ (株)エスアイシステム ／ ニチラク機械(株) ／ (株)ロイヤルファーム ／ (株)RFペンケル牧場 ／ (株)RF青森牧場 ／ 三和流通産業(株) ／ 直販配送(株) ／ 北網運輸(株) ／ 日本ポート産業(株) ／ 日本乳品貿易(株) ／ (株)アミノアップ化学 （合計15社）

事業別売上構成（連結）



財務ハイライト

「雪印メグミルクグループ中期経営計画(2014年度～2016年度)」に基づき、需要の拡大と競争力の強化に取組み、チーズやヨーグルトなどの主力商品の拡売、生産性の向上によるローコストオペレーションの実現、ならびに販売価格の見直しによるコストアップへの対応等により収益性向上に努めました。特に、機能性表示食品制度を活用し当社保有の乳酸菌「ガセリ菌SP株」の訴求に重点的に取り組み、ヨーグルトの売上が大きく伸長いたしました。そのほか、デザートの売上が好調に推移したこともあり、製品構成が改善され、飲料・デザート類セグメントの黒字化を実現いたしました。

その結果、2016年3月期の連結売上高は5,783億円(前期比105.2%)、連結営業利益は140億円(前期比149.3%)と増収増益となりました。また、阿見工場に生産移管を終えた旧関西チーズ工場および旧横浜チーズ工場の跡地を売却したことによる固定資産売却益の計上などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は150億円(前期比382.7%)となり、大幅な増益となりました。

経営成績

(億円、%)

	2015年3月期	2016年3月期	増減額	前期比
売上高	5,498	**5,783**	+285	105.2
営業利益	93	**140**	+46	149.3
経常利益	104	**142**	+37	136.2
当期純利益※	39	**150**	+111	382.7

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

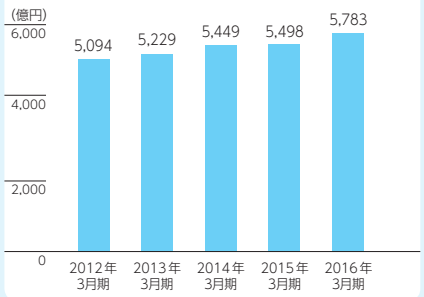
セグメント(事業)別情報

(億円、%)

	乳製品		飲料・デザート類		飼料・種苗		その他	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
売上高	2,269	106.5	2,694	105.4	459	96.8	360	106.7
営業利益	94	101.6	22	+	8	78.3	13	218.6

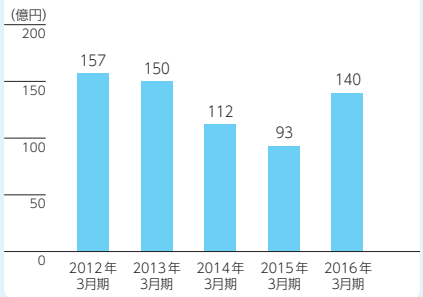
成長性

売上高

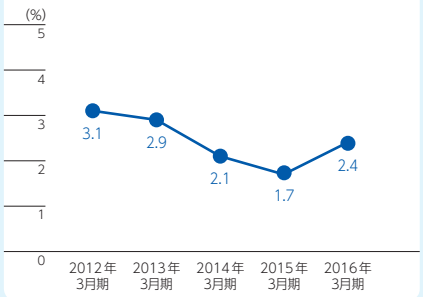


収益性

営業利益

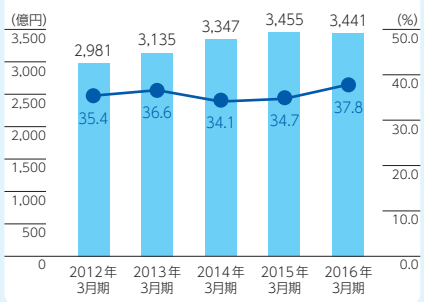


売上高営業利益率



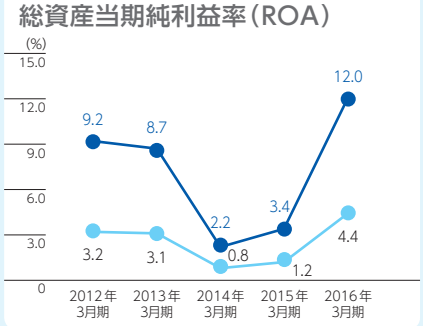
効率性／安全性

総資産／自己資本比率



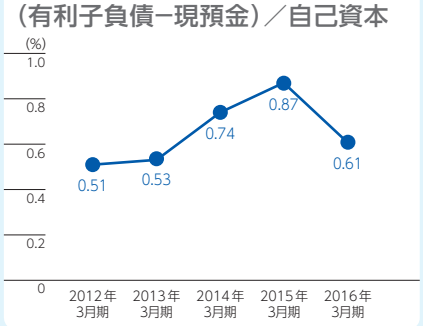
■ 総資産 ●自己資本比率

自己資本当期純利益率(ROE)／総資産当期純利益率(ROA)



●自己資本当期純利益率(ROE) ●総資産当期純利益率(ROA)

ネットDEレシオ(有利子負債−現預金)／自己資本



「未来は、ミルクの中にある。」私たちは、幸福な会社へと向かっていきます。

慶應義塾大学大学院、前野隆司教授は、システムデザイン・マネジメント研究科委員長であり、「倫理学」から「幸福学」についての研究にも携わられています。その前野教授と西尾社長が、企業人にとっての幸福とは何か、について対談しました。

西尾　当社では、2000年の「雪印乳業食中毒事件」、2002年の「雪印食品牛肉偽装事件」を決して風化させず、食に携わる企業人としての倫理観、使命感を再確認し共有化することを目的に、毎年1月と6月に「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日」の活動を継続してきました。現在は、社員の半数以上が事件を経験していない世代であり、この活動の重要性は高まっていると考えています。これまでも、コンプライアンス経営やリスクマネジメントといったいわゆる予防倫理について専門家の方々からお話を伺ってきましたが、先日、前野先生からは、志向倫理について講演していただきました。社員からは「前向きになれた」「希望を持って進むことが大事だ」といった声が寄せられています。

前野　講演の中で、3人ごとのグループになってディスカッションをするコーナーを設けましたが、非常に活気がありました。倫理教育に熱心に取り組んできた良い会社なのだと感じました。倫理学とは、「何をすべきか」「何をすべきではないか」という学問です。ですから、隠蔽すべきではない、汚職をすべきではない、ということも倫理ですが、会社や世の中をより良くすべきだということも倫理なのです。悪くなった人を教育するだけではなく、普通の人、あるいは志の高い人を、より志の高い人にしていきましょうというのが志向倫理です。予防医学やポジティブ心理学のように、ポジティブな面にスポットライトを当てることで、より良い理想的な世界を築きましょうという大きな流れが、いろいろな学問で起きています。私は「志の倫理」と呼んでいますが、志向倫理もその中の一つだと言えます。

西尾　企業においても、志向倫理によって全体のレベルを上げることで、ポジティブな気持ちになり、自己実現や成長といった企業人の幸せの実現につながるということですね。ところで先生の著書「幸せのメカニズム」の中には、地位財と非地位財というお話が出てきますね。

前野　地位財とは、お金や物や名誉のように、他人と比較することのできる財のことです。これは企業活動の重要な基盤となるものですが、これによって得られるのは短期的な幸せに過ぎません。長期的な幸せは、自分の周囲の環境、健康といった身体要因、精神的な心の要因といった、非地位財から得られるものなのです。

自分の夢と会社の夢が一致している人は幸せですね。（前野）

私は、企業の夢は、企業理念にあると思っています。（西尾）

西尾 おなじく「幸せのメカニズム」には「幸せの4つの因子」が出てきます。第1が「やってみよう!」因子ですね。これは、成長に対するモチベーションや夢、理念の共有といった、自分の中の因子ということですか。

前野 自分がやっていることと、将来の夢の方向性が一致している人は幸せなのです。会社員なら、自分の夢と会社の夢が一致している人は幸せですね。

西尾 私は、企業の夢は、企業理念にあると思っています。企業理念が自分の夢と一致すると、仕事をしていて幸せだということですね。

前野 その通りだと思います。

西尾 私は、企業人として行き詰まったとき、戻るべき原点は企業理念にあると思います。ですから、機会があるたびに企業理念の話をしています。当社は、企業理念として3つの使命を掲げています。「消費者重視経営の実践」、これはお客様や消費者です。「酪農生産への貢献」、これは酪農家です。「乳（ミルク）にこだわる」、これは我々、乳業者の姿勢です。私たち乳業者の使命は、起点となる酪農家と消費されるお客様を結ぶことです。ミルクのサプライチェーンの真ん中に位置して、それを取り巻く人の健康や幸福に貢献していきます。私はこの企業理念は素晴らしいものだと思っていますし、コーポレートスローガンの「未来は、ミルクの中にある。」も私の好きな言葉です。しかし、皆が私と同じように理解してほしいと考えているわけではありません。開発、生産、営業、酪農、いろいろな仕事をしている人がいて、それぞれの業務や立場で、自分が果たすべきミッションはなんだろうと考えることが大事だと考えています。

前野 先日の講演では、「未来は、ミルクの中にある。」ということをグループで話し合ってもらいました。生き生きしている方も、ちょっと戸惑っている方もいらっしゃいましたが、自分の言葉で話し合って、気づいていくことが重要なのです。皆で話し合っていくことで、皆が企業理念でワクワクしている会社になると思います。

西尾 モチベーションが内発的であるということも大事だと思っています。上司の指示が行き過ぎると、部下の内発性は損なわれていきます。権限委譲をすることが大事なのですが、優秀なマネージャーほど、「これを達成するにはこうすれば絶対うまくいく、だからこの通りやりなさい」、と指示してしまいます。そこが悩ましいところなのです。

前野 私は幸せな企業の研究もしていますが、上手くいっているのは中小企業が多いです。中小企業は、社長の思いが全員に伝わりやすいのです。権限移譲が行なわれることで、皆が自発的に工夫をするようになります。大企業だからこそ、マネージャーも部下も、全員が工夫をする余地のある会社になれるよう、頑張っていただきたいと思います。

当社は人材の多様性の確保を大事な政策の一つにあげています。(西尾)

幸福もイノベーションも、多様な人がいる方が起きやすいのです。(前野)

西尾 次に、第2の「ありがとう!」因子、つながりと感謝の因子について教えてください。

前野 感謝をする人は幸せなのです。感謝されることも嬉しいのですが、いろいろなことに感謝する人は、じつは幸せなのです。酪農家さんがいて、消費者の皆さんがいて、社会の中で生かされてありがとう。あるいは、社員の方から見て、上司の方々ありがとう。ありがとうから信頼関係ができます。信頼関係ができると、人々のために尽くそうという気になりますね。感謝と信頼、利他や愛は全部つながっています。感謝を育んでいくことが、幸せのためには重要なのです。

西尾 人のためになることで、幸せを感じるということですね。先生は幸福とは、つながりの量ではなくて多様性だともおっしゃっています。

前野 これはうちの学生の研究なのですが、友人や知人の数が多いことよりも、多様な知人がいる方が幸せなのです。企業の中でも非常に重要なことです。縦割り組織の中で、同じ部署の人とだけ接するのではなく、生産部門と販売部門の人が交流したり、消費者や酪農家の人たちと交流したりすることが大事だと思います。相互理解をすることで、企業理念の理解も広がります。

西尾 当社は人材の多様性の確保を大事な施策の一つにあげています。なぜかというと、当社には、赤ちゃんからお年寄りまで、すべてのライフステージに対する商品がありますし、消費者も多様化しているので、一人の頭では解決策が出せなくなっているからです。ですから得意分野も、バックグラウンドも、ライフスタイルも違う多様な人たちが、たくさんのアイデアを出してアプローチすることが重要だと思っています。これまで私どもは、どちらかというと男性中心の社会でしたが、女性、シニア、外国人社員などと一緒になって、多様性を活かしていくことが命題になっています。

前野 幸福だけではなく、イノベーションも多様な人がいる方が起きやすいことがわかっていますから、これは重要な取組みだと思います。

行動する楽観主義が大切なのですね。(西尾)

楽観的になると全体が見えて、大きな判断ができます。(前野)

西尾 それから3番目の「なんとかなる!」因子、前向きと楽観の因子についてもご説明いただけますか。

前野　楽観的で、前向きで、自己受容している人が幸せなのです。楽観性にもいろいろありますが、根拠のない楽観ということではなく、やることはきちんとやったから、あとは大丈夫だという自信のある楽観です。

西尾　単にリラックスすることではなく、行動する楽観主義が大切なのですね。

前野　もう一つは、自己受容です。自分のことを、いいところも悪いところも含めて受容していること。これは、企業も、人も同じです。失敗もあったし、辛い経験もあったけれど、うちの会社は、それをバネに教訓を得て、頑張っているじゃないか、そういう風に考えられる人は、幸せになれるのです。あの時は上手くいかなかったけれど、次は上手くいくという考え方です。

西尾　そうすると、自分の思いが現実になるということですね。

前野　ポジティブになると心がオープンになるので、情報を広く捉えられるのです。悲観的な気分の時には、物事の細かいことが気になるという研究もあります。楽観的になると全体が見えて、大きな判断ができます。

一人ひとりの主体性と同時に、チームワークを求めていきたい。（西尾）

それは、幸せな社員づくりになっていると思います。（前野）

西尾　4つ目の因子、「あなたらしく!」、マイペースという因子ですが、これについても少し。

前野　人の目を気にしない傾向のある人は、幸福度が高い傾向があります。人の目を気にするのは、人と比較する、つまり地位財型の幸せを求めてしまうということです。一方、非地位財の豊かな幸せを自分らしく見ている人は、幸福度が高いのです。自分らしくやっていますから、自分らしい夢が見つかるでしょうし、多様な友達と付き合っていると、人生も面白くなってきますよね。

西尾　私は、一人ひとりの行動様式が多様で主体性が強いことと同時に、企業としては最終的にチームワークを求めていきたいと、常々話しています。

前野　素晴らしいですね。主体性とチームワークの両方を上げることで、仕事のできる社員づくりと同時に、幸せな社員づくりになっていると思います。幸せな社員は、パフォーマンスが高い、創造性が高い、欠勤率が低い、病気になりにくい、離職率も低い、他人の仕事を手伝うといった利他性も高いことがわかっています。

前野 隆司 氏プロフィール

1984年	東京工業大学工学部機械工学科卒業
1986年 同年	東京工業大学理工学研究科機械工学専攻修士課程修了 キヤノン株式会社入社
1990年– 1992年	カリフォルニア大学バークレー校Visiting Industrial Fellow
1993年	博士(工学)学位取得(東京工業大学)
1995年	慶應義塾大学理工学部専任講師、同助教授、 同教授を経て2008年よりシステムデザイン・マネジメント研究科教授
2001年	ハーバード大学Visiting Professor
2011年	4月より慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長

西尾　本日は、倫理学、幸福学そして幸せの4つの因子の基本についてお話しいただきましたが、やはり企業は、つまるところ人なのですね。私は、人が幸福に働くことが、成長の源泉だと思っています。私たちは、事件を風化させず、次世代にしっかりと伝えていくという予防倫理の部分を押さえながら、より高い目標を持ち、より社会に貢献し、より社員が幸せになっていくための志向倫理を加え、企業経営に当たっていきたいと思います。

前野　予防倫理と志向倫理は、両輪だと思います。予防倫理にしっかり取り組みながら、それと同じくらいの力を入れて、元気の出る志向倫理を進めるのが、理想的な倫理教育であり、幸せな社員づくりなのだと思います。まさに、幸せな会社づくりを進められているのですね。

西尾　はい、それに向けて進んでいます。
今日は、ありがとうございました。

消費者重視経営の実践

迅速で正確な情報を提供していくとともに、お客様・消費者の声に耳を傾け、消費者重視経営を実践していきます。また、独自の品質保証システムを確立し、安全で安心していただける商品をお届けしていきます。

雪印メグミルクグループの「消費者重視経営」

私たち雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた消費者の「8つ」の権利に向き合い、「4つ」の基本姿勢に基づく「7つ」の取組みにより、事業者の責務を果たしていきます。

消費者基本法
(2004年制定)

消費者の『8つ』の権利

❶国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、
❷その健全な生活環境が確保される中で、
❸消費者の安全が確保され、
❹商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、
❺消費者に対し必要な情報及び
❻教育の機会が提供され、
❼消費者の意見が消費者政策に反映され、
❽並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること

※条文の内容をわかり易くするために数字を付け表記

雪印メグミルクグループの「4つ」の姿勢

- 安全で安心していただける商品の提供
- 消費者への情報提供、情報開示
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映
- 危機管理体制の整備により迅速、適切に対応

雪印メグミルクグループの「7つ」の取組み

企業倫理委員会 ▶ P. 40に掲載

- 品質部会(社外視点の工場品質監査)
- 消費者部会(消費者重視経営への意見)
- 表示部会(消費者視点の商品表示確認)

品質保証体制の確立

- MSQS※による安全で安心していただける商品の提供 ▶ P. 17に掲載

※**MSQS**:雪印メグミルク品質保証システム
(**M**EGMILK **S**NOW BRAND **Q**uality Assurance **S**ystem)

危機管理体制の構築

- 商品告知回収体制の確立と運営 ▶ P. 44に掲載
- 日次でのお客様センター入電状況定時報告
- 週次でのリスク連絡会による情報共有化

向き合う

事業者の『5つ』の責務

❶消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。
❷消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。
❸消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。
❹消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。
❺国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

※条文のまま表記

消費者基本法を根幹とした消費者重視経営

情報開示

- CSR活動報告書
- ホームページ

お客様センター

- 苦情への迅速で適切な対応
- 消費者の声を傾聴
▶ P. 17に掲載
- 「お客様満足向上ミーティング」の開催
▶ P. 18に掲載

お客様モニター

- 消費者の声を傾聴し、消費者視点での相互理解を進める ▶ P. 18に掲載

ホームページ運営

- 消費者への情報開示、経営の透明性
- ネガティブ情報も公正に開示

食育・普及

- 食の大切さ、乳の大切さを伝える
▶ P. 20に掲載

特集

安全で安心していただける「おいしい」をお届けするために

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」 PAGE 17

生産

原材料調達

酪農生産・生乳の供給
雪印メグミルクグループでは、乳牛のえさとなる牧草や飼料の品質向上から、酪農家が日々取り組まれている生乳の品質向上をサポートしています。

品質監査
企業倫理委員会品質部会による社外の目、品質保証部による社内の目、製造現場の品質管理者による現場の目による監査を実施しています。

物流・流通

品質検査
生乳受け入れ時をはじめ、製造工程の各段階で検査が行なわれています。出荷前には、機器による検査と人による風味などの検査が行なわれ、合格した製品だけが出荷されていきます。

受け入れ検査

生乳の受け入れ検査
タンクローリーで工場に運ばれてきた生乳は、乳質、風味などの厳重な検査をしてから受け入れられます。

品質部会監査

出荷時検査

衛生管理
工場の従業員は、専用のユニフォームを着用しています。製造室に入る前には靴をはき替え、服に付着したほこりなどを取り除き、石鹸での入念な手洗いを行ない、アルコール消毒したのち、エアシャワーのブースでさらに細かいほこりを吹き飛ばしてから製造室に入室します。

工場見学を実施しています

見学いただける工場一覧 PAGE 48

雪印メグミルクグループでは、安全で安心していただける商品の提供が「消費者重視経営の実践」の最も大切なことであると考えています。酪農家の皆様が良質で安全な生乳をつくるところからサポートし、工場での生産では徹底した品質管理・衛生管理のもと商品を生産しています。また、物流・流通では、店頭に並ぶまでの間、おいしさと安全を保つため適切な保管と配送をしっかりと行なっています。

雪印メグミルクグループでの、安全で安心していただける「おいしい」をお届けするための取組みをご紹介します。

店頭・宅配／業務ユーザー

消費者／お客様

物流・流通

生産された商品は、品質とおいしさを保つために、専用の冷蔵車で冷蔵状態を保持して店頭まで運ばれます。(冷蔵商品)

宅配での品質管理

ご家庭に安全で安心していただける商品をお届けするために、宅配品質認証制度を実施しています。流通品質・サービス品質において当社の定める基準をクリアした牛乳販売店に、宅配品質「S認証」を付与しています。

店頭での品質管理

担当セールスが店舗を巡回する際に、商品の陳列や保存状態について、店頭の担当者にチラシを配るなどの啓発活動をしています。

お客様センター

お客様からいただいた、ご意見、お問合せ、苦情に年中無休で対応しています。いただきましたお声は、お客様満足向上に向けて活かされていきます。

お客様センター PAGE 17

安全で安心していただける商品の提供

「3つの目」による品質チェック

[雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の仕組み]

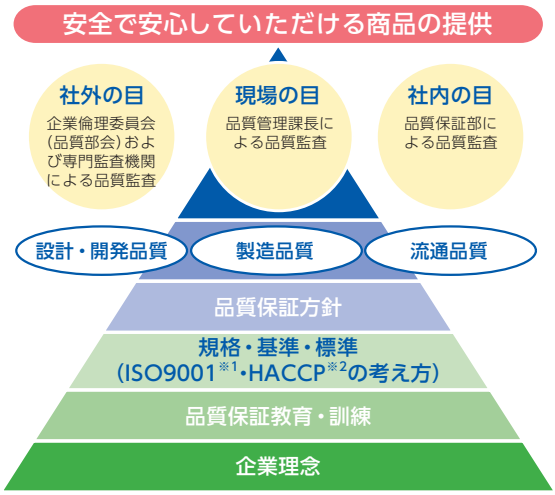
雪印メグミルクは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視経営を実践し、信頼していただける品質の実現を目指します。そのために品質保証方針として、以下の4つの項目を定めています。

雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。なお、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・検証するために、現場、社内、社外の3つの目でチェックを行なって、品質保証システムを改善し強化しています。

品質保証方針

1. 消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
2. 適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
3. 消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
4. 危機管理体制を整備し、迅速、適切に対応します。

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の概念



※1 ISO9001：組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

※2 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)：原料から製品にいたる一連の工程において発生する危害を調査・分析した結果から、特に重点的に管理する必要のある箇所を常時モニタリングすることで製品の安全性確保を図るもの。

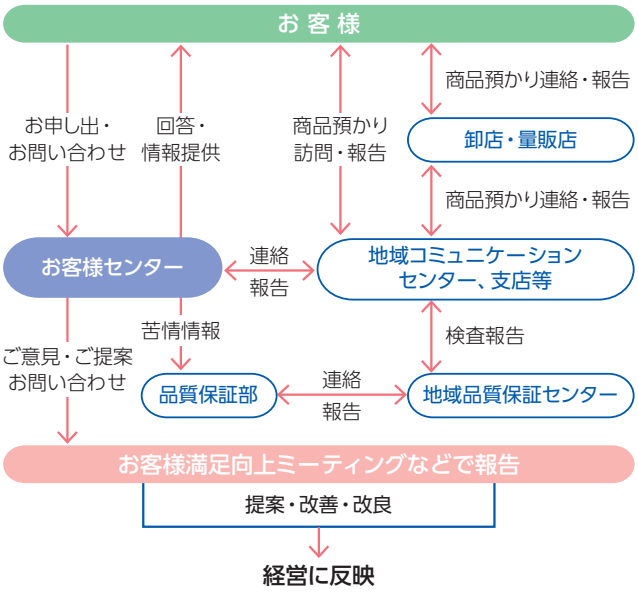
お客様のお申し出に迅速かつ適切にお応えします

[お客様の声をお受けするお客様センター]

雪印メグミルクでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでのお問い合わせに年中無休で「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考えています。いただきました貴重なご意見は、担当部署へ伝達し、より良い商品の提供へ役立てています。また商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関係部署と連携して検査を実施し、お客様に迅速な報告を行なっています。

お客様からの声をいただいています

お客様センターの対応の流れ



私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 品質保証部 分析センター　佐々木 麻子

迅速で信頼性のある出荷検査体制をつくり、安全安心な商品をお客様に提供します!

お客様の満足への取組み

お客様の声を社内に伝えています

[お客様モニター]

「お客様モニター」は、応募者の中から選考された消費者の皆様と、工場見学や牧場での酪農体験、意見交換などを行ない、その中で出されたご意見を企業活動に反映させていこうとする取組みです。2015年度から関東、関西に中部地区を加えて開催しました。お客様モニターでは、各地域の社員が運営に加わり、消費者の皆様と一緒に、消費者重視経営の実践の取組みを学んでいます。

昨年は、工場見学や牧場での搾乳、バター作り体験と「当社の情報発信」をテーマにした意見交換を行ないました。また、各地域の食育担当者から食育プログラムの紹介をするなど、地域に根ざしたアピールが好評を博しました。今後もこの取組みを通して得られたお客様の声を社内に伝える活動を続けていきます。

工場見学の様子

牧場で子牛の心音を聴くモニター

お客様の声を傾聴し商品・サービスに活かします

[お客様満足向上ミーティング]

お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、雪印メグミルクでは「お客様満足向上ミーティング」を開催しています。

お客様から寄せられたご意見・ご要望の中で数の多かった声を中心に、「お客様満足向上ミーティング」にて関係部署間の協議を行ない、2015年度は改善が決定したものが17件となりました。その結果を受けて改善した事例は、ホームページなどでお知らせしています。

また、「お客様満足向上ミーティング」の内容は「企業倫理委員会」と「取締役会」で報告しています。

お客様の声にお応えした例を以下に紹介します。

トランス脂肪酸についての情報をパッケージからアクセスしてご覧いただけるようにしました。

「ネオソフト」シリーズのパッケージ

「ネオソフト」シリーズのパッケージ裏面や側面にホームページのブランドサイトに直接アクセスできる二次元コードを表示しました。

「ネオソフト」ブランドサイト

ブランドサイトには、商品情報、キャンペーン情報などとともに、「トランス脂肪酸が気になる方へ」というコンテンツが掲載されています。

「トランス脂肪酸が気になる方へ」

トランス脂肪酸の知識や、「ネオソフト」シリーズ商品に含まれる量などを、Q&A方式で分かりやすく解説しています。

食品の放射性物質に係る対応について

雪印メグミルクは、お客様に安全で安心していただける商品をお届けするために、定期的に放射性物質の検査・モニタリングを行ない、国が定める基準値以下であることを確認しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

WEB よくいただくご質問、放射性物質について
http://www.meg-snow.com/customer/faq/radioactivity.html

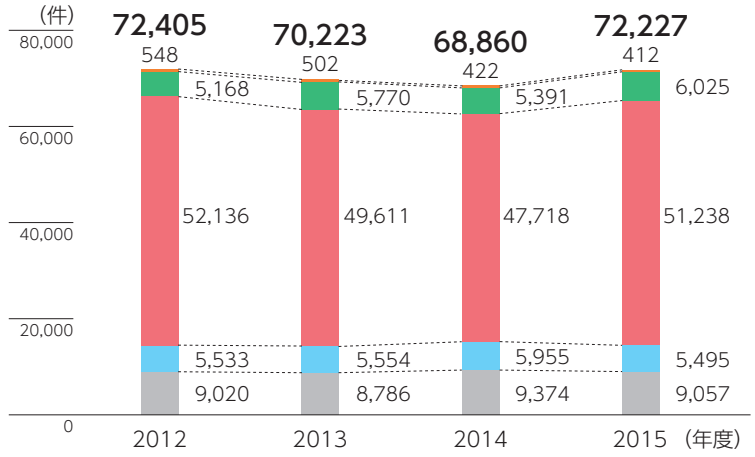
私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) お客様センター　豊田 直美

高齢化社会に対応するため、介護食アドバイザーの資格を取得し、お客様対応に役立てたい!

お客様センターの受付件数

2012年度～2015年度の受付件数



- **満足**　:お褒め、お礼、激励など
- **興味・関心**　:宅配お申し込み、取扱店紹介、サンプルや資料のご請求など
- **問い合わせ**　:商品の原料、製法、保存方法、利用方法などへのご質問
- **不満・指摘**　:商品・サービスに対する不満点へのご要望
- **苦情**　:商品引取り、訪問、検査などの対応が必要な苦情

2015年度の主な特徴

1. 受付件数

2015年度の受付件数は、前年度と比較して、全体で約5%(3,367件)増加しました。

2. 入電の傾向

①ガセリ菌SP株に関連する入電の増加

「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト」が機能性表示食品の届出を受理された事により、お問い合わせ及び取扱店紹介、宅配お申し込みが急増しました。

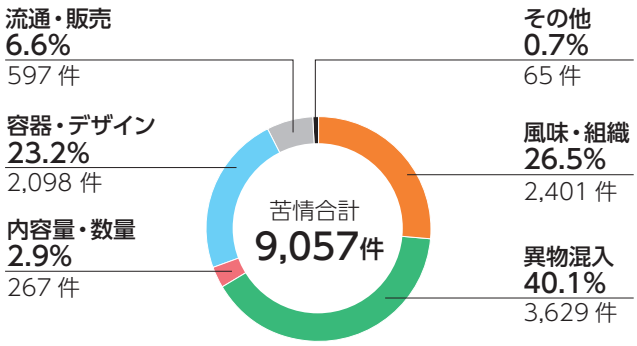
②MBP®に関する入電の増加

「毎日骨ケア MBP®」に関するお問い合わせが前年の約1.5倍に増加。広告宣伝などにより、骨の健康に対する意識の高まりが伺えます。

③異物混入の入電が増加

2014年12月の「食品への異物混入」報道の影響は2015年度も引き続いており、苦情全体が前年の約97%と減少傾向を示す中にあって、異物混入のお申し出は、前年の約116%と増加しました。

2015年度の受付件数の中での「苦情」の内訳

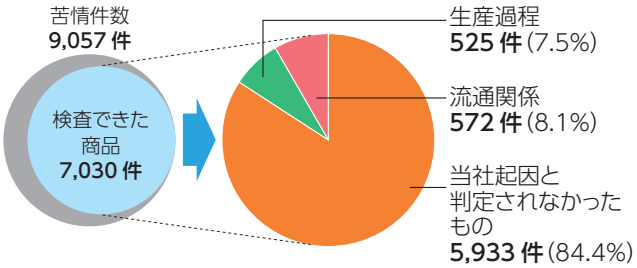


- **風味・組織**　:苦い、甘い、塩辛い、固化、離水、溶けている、カビが生えていた、ホイップできないなど
- **異物混入**　:毛、ビニール、繊維、虫が入っていたなど
- **内容量・数量**　:量が少ない、入り数が足りない、添付物がないなど
- **容器・デザイン**　:漏れ、破損、包装不良など
- **流通・販売**　:賞味期限切れ購入、宅配店の対応苦情など
- **その他**

お客様苦情のうち、ご協力いただいて検査ができた商品の起因別内訳

2015年度の苦情件数9,057件のうち、商品の提供をいただいた7,030件について検査を実施しました。

その検査結果から、苦情起因の判定を行ない、商品の設計や製造工程の改善に役立てています。



私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 池上製造所 総務課　**浅田 眞奈美**

見学に来られた皆さんが雪印メグミルクのファンになっていただけるよう、
誠心誠意『おもてなし』していきます!

雪印メグミルクの食育活動

健康で笑顔あふれる生活のために

雪印メグミルクでは、消費者重視経営の7つの取組みの一つとして、食育・普及活動「乳の食育 雪印メグミルク食コミュニティ」を展開しています。「食の大切さと尊さ」、「牛乳・乳製品の価値」を子どもたちやお客様・消費者にお伝えし、「食」を通して人々の健康で笑顔あふれる生活を応援します。

「食の大切さと尊さ」を学ぶ5つの大切なポイント

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養うため「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクは、そのために右の5つが大切なポイントであると考えています。

「乳の食育」を通して伝えたいこと

食の大切さと尊さ

1. 食べることは私たちにとって極めて大切であり、特にバランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にすること。
2. 食べものは自然の恩恵を受けた尊い資源であること。すべての食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて、自分たちの生をつないでいること。

牛乳・乳製品の価値

1. 牛乳・乳製品は、日本人に不足しているカルシウムを効果的に補う食品である。
2. 牛乳・乳製品は「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる食べものである。
3. 牛乳・乳製品は、乳牛の“命の恵み”を原料として「牧場（酪農）」や「工場（製造工程、品質管理）」などの現場を経て消費者に届けられ、そこに関わる人々によって大切に作られた食べものである。

牛乳の大切さを伝えます［小中学校への出前授業］

成長期の子どもたちにとって、毎日給食に出てくる牛乳がどんな役にたっているのか、規則正しい生活の大切さも含めて、出前授業でお伝えしています。2015年度は、小中学校207校、17,959名の生徒・保護者などを対象に実施しました。

牛乳の大切さをお伝えします

WEB 食育出前授業 実施校一覧（実績）
http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/class/list.html

乳製品の知識を通じて、食の楽しさや健康作りを応援します［各種セミナー］

社会人や学生を対象に、「チーズセミナー」「ヨーグルトクッキングの会」「骨・カルシウムセミナー」などを行なっています。また、新たにスポーツをする子どもたちとその保護者を対象に、スポーツにおける食事の大切さをお伝えする「スポーツ食育」を展開しました。2015年度は全国で18,995名の方にご参加いただきました。

スポーツにとって正しい食事はとても大切です

WEB 食コミュニティ（セミナーのお申し込み等）
http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/

牛乳・乳製品を普段の食事に［料理講習会］

さまざまな方を対象に料理教室を行っています。普段の食事に上手に牛乳・乳製品を取り入れていただけるメニューをご提案します。2015年度は全国で6,047名の方にご参加いただきました。

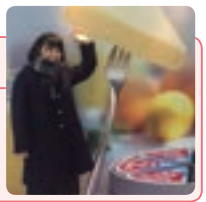
WEB 料理講習会のお申し込み
http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/cooking.html

牛乳・乳製品は色々な使い方があります

私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 中部コミュニケーションセンター　渡邊 華与子

お子様からおばあちゃんまで幅広い年齢層の雪印メグミルクファンを増やすべく、知識と笑顔を磨きます!



酪農生産への貢献

特集

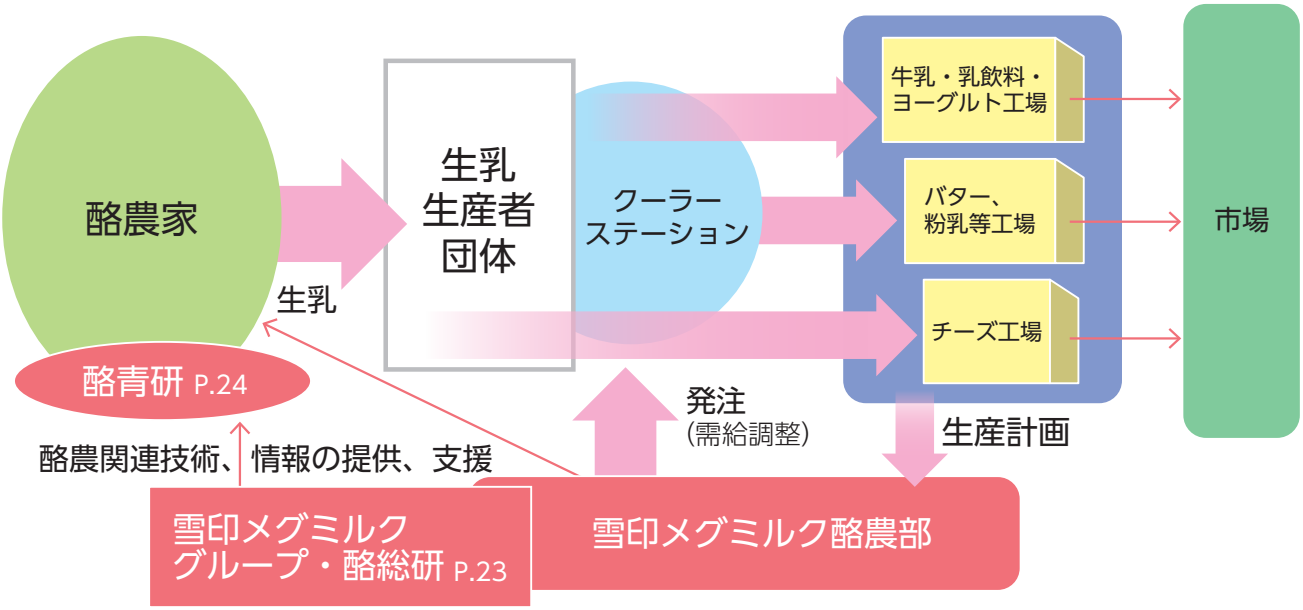
酪農とともに歩む 雪印メグミルクグループ

雪印メグミルク(株)は、2011年に「日本ミルクコミュニティ(株)」と「雪印乳業(株)」が合併して誕生しました。合併以前の各社は、それぞれが生産者団体を母体として生まれた経緯にあります。

前身の一つである「北海道製酪販売(株)」が誕生してから、2015年で90年が経過しました。その間、酪農生産の発展と共にあり、その生乳から生まれる牛乳・乳製品をお客様にお届けしてきました。

雪印メグミルクグループは、これからも、お客様に安全で安心していただける商品をお届けすることで酪農生産に貢献していきます。

酪農家から工場への生乳の流れ



雪印メグミルクグループでは、酪農家の皆さんが、精魂こめて育てた乳牛から搾る生乳を、おいしくて安全で安心していただける牛乳・乳製品に生産して食卓に提供しています。

使命の一つに掲げている「酪農生産への貢献」は、まさに、この生乳の流れを滞りなく安定して運用していくことにあります。

生乳は、様々に形を変えて、色々な商品になります。

生乳をむだなく効率的に牛乳・乳製品にするためには、需給調整が不可欠です。

その生乳をむだなく効率的に商品にするために生乳生産者団体と、当社の酪農部が連携して、配分調整を行なっています。

また、雪印メグミルクグループ各社と、酪総研では、酪農家の経営、生産技術の向上について考え、情報共有することによって、支援しています。

これらは、酪青研の活動や、酪総研シンポジウムの開催などを通して行なわれています。

他にも雪印種苗(株)での飼料作物の品種改良・飼養改善などの取組み、ニチラク機械が取組んでいる酪農現場での乳製品加工設備の提供など、雪印メグミルクグループ全体で「酪農生産への貢献」に取組んでいます。

「(株)TACSしべちゃ」の取組み

農業生産法人(株)TACSしべちゃは、標茶町農協・雪印種苗(株)・標茶町が共同出資して2013年11月25日に北海道釧路総合振興局川上郡標茶町に設立し、2015年4月3日から搾乳を開始しました。

ここでの取組みは、北海道の広大な草地を活かし、自給飼料を中心とした草地型酪農の模範となる農業生産法人として低コスト型経営のモデルとして運営するとともに、その実践内容を地域に普及させることです。雪印種苗(株)は、長年培った草地管理技術と乳牛飼養管理技術をいかし、生産性の向上をめざし、(株)TACSしべちゃが取組む技術課題の解決に協力しています。

自給飼料への取組みにおいては、面積約200haで牧草とデントコーン(トウモロコシ)を栽培しています。2015年6月実施の調査結果においては、10aあたりの収量は地域の平均値をまだまだ下回っている結果となり、今後のさまざまな取組で着実に成果を上げ、経営課題の解決と地域への技術普及に役立てたいと考えております。

生乳の生産においては、2016年3月時点での搾乳頭数は210頭、出荷乳量1,938t(計画比133.8%、2015年4月～2016年3月)と計画を上回る成果を出しています。

今後も、雪印種苗(株)のノウハウと技術を活用し、酪農生産に貢献していきます。

新築の牛舎

刈取り前の牧草地

雪印種苗株式会社

サイレージ乳酸菌「サイマスターAC」が、北海道指導参考事項に認定
牧草サイレージの品質改善に貢献

雪印種苗株式会社は、雪印メグミルクグループの中で乳牛用の高品質な飼料作物種子、飼料を供給することによって、酪農生産の現場に直接貢献しています。

北海道では一般的な自給牧草は、乳酸発酵させた「サイレージ」として乳牛に与えることによって、品質の良い生乳を生産しています。

雪印種苗(株)では、サイレージ中の雑菌の増殖を抑える乳酸菌の研究に取組んできました。その結果開発されたサイレージ用乳酸菌「サイマスターAC」による発酵品質の改善効果が「北海道指導参考事項」として認定されました。

この指導参考事項の認定でサイマスターACが普及することによって、サイレージの発酵品質が改善され、生乳の品質向上と生乳生産効率の向上に貢献します。

酪農と乳の歴史館概要紹介

酪農と乳の歴史館は、雪印乳業(株)の創立50周年の歩みを記念して1977年9月にオープンしたもので、日本で一番最初の乳業の歴史館です。1階から3階までの吹き抜けには世界各国のカウベルが74個吊るしてあり、2階展示室には1925年創業当初、実際に使われていた手回しのバターチャーンをはじめ、昔使用していた機械類や工場の様子を模型などでご覧いただけます。3階展示室には、「蝦夷地」から「北海道」へと歴史が変わった後の「北海道の酪農のはじまり」と、その後の「当社の歴史」をご紹介しております。また、当館には100年以上前に出版された「大日本農史」をはじめ、日本各地域の畜産史など貴重な蔵書が約1,500冊保管されております。蔵書はどなたでも閲覧が可能で貸出しも行なっております。みなさまお気軽に当館へお立ち寄りください。

雪印メグミルクグループの「酪農生産への貢献」の取組み

日本の酪農生産者と共に成長していくために、酪農生産現場との意見交換や情報提供を継続的に実施し、日本の酪農を応援しています。

酪農総合研究所

雪印乳業(株)の創立50周年記念事業の一環として、1976年3月15日に設立された(株)酪農総合研究所(酪総研)は、多くの関係機関・団体のご協力のもと、わが国唯一の民間による酪農調査研究機関として活動を続けてまいりました。その後、2005年に雪印乳業の社内組織となり、今年で創立40周年を迎えます。現在、雪印メグミルクの酪農部門の1つとして①実証圃場・経営実証農家への取組み②酪総研シンポジウムの開催③日本酪農青年研究連盟(略称:酪青研)事務局を中心とした活動を行っています。また、酪農に関する意見を聞く場として、雪印メグミルク発足時から設置している酪農諮問委員会の事務局を担当し、年に2回開催しています。

草地の植生調査

実証圃場・経営実証農家への取組み

酪農において、自給飼料はその質と量によって経営に大きな影響を与えます。国際化が進むわが国酪農において、国産飼料の増産と利活用が重要な課題となっています。

酪総研では、雪印メグミルクグループの連携により、酪農生産者、関係機関および団体、大学等との協力体制のもとで、実際の酪農生産者や団体の圃場(牧草畑)を対象に定期的に調査しています。

草地の肥培管理や更新、最適種の選択による植生改善などを目的とした「実証圃場」の調査研究と、草地管理・飼養管理・経営管理の分析を通じ、酪農経営・技術の向上および地域への成果の波及を目指す「経営実証農家」の調査研究に取組んでいます。

創立40周年記念シンポジウム

酪総研シンポジウム

毎年、酪総研シンポジウムを開催し、時節にあったテーマを設定して酪農技術、牛乳および乳製品の消費、酪農制度・政策、酪農乳業情勢など幅広い分野で、講演と意見交換を行っています。今年は創立40周年記念シンポジウム「日本酪農の可能性 ―人・牛・飼料―」をテーマに掲げ、3名の先生方にご講演いただき、全国各地より酪農生産者、関係機関指導者、研究者など約330名が集い、活発な議論が交わされました。

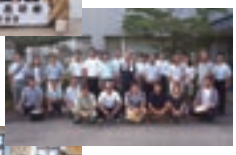
私のCHALLENGE

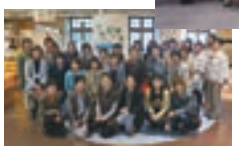
雪印種苗(株) 研究開発本部 園芸作物研究グループ 花卉研究チーム **大川 恵子**

綺麗なお花を皆さんにお届けするべく日々奮闘中。
プライベートでは少年野球のスコアラーに挑戦中。

第67回日本酪農研究会（全国大会）

海外酪農研修


中堅会員研修


全国レディースの集い

日本酪農青年研究連盟（酪青研）

わが国で最も歴史のある酪農生産者の実践的研究組織です。1948年の戦後混乱期に、北海道酪農の復興に燃える酪農青年が酪農の理想郷を目指して研究会を発足させ、その後、組織の輪を広げ、1963年に全国組織となりました。

発足当初から当社グループ（雪印メグミルク（株）、雪印種苗（株）、八ヶ岳乳業（株））が事務局を担い、北は北海道から南は沖縄まで約1,800名の酪農生産者によって組織され、地域ごとに活動を行っています。

毎年全国から会員が参集する日本酪農研究会は、2015年で第67回となり福岡市で開催されました。研究会では、全国から選抜された酪農家6名の方による酪農経営発表と5名の方から酪農に対する想いが発表されました。日本酪農研究会には、当社グループ（上記に加え、ニチラク機械（株）、（株）YBS）も後援・協賛しています。

酪青研では、その他、海外酪農研修、中堅会員研修、全国レディースの集いなどを開催し、酪農生産者の全国のネットワークを推進しています。また、1977年に創刊した会員向け機関紙「酪農青年」は、現在、第565号を発刊しました。

酪農諮問委員会

酪農諮問委員会

酪農諮問委員会には、酪農生産を代表する方、学識経験者の方々に参画していただいています。

2015年度は、諮問テーマとして「生乳生産の回復に向けた新たな基本計画・基本方針及び関連対策の評価と課題」について討議を行いました。生産現場における関連対策と今後の課題について、各委員からそれぞれ率直な意見をいただきました。

酪農諮問委員会 委員一覧 PAGE 48

機関誌による情報提供

「酪農」誌は、雪印メグミルクが酪農生産者および酪農関係機関、酪青研の会員の方々への情報提供を目的として、雪印乳業の前身＝北海道製酪販売組合連合会時代の1933年に創刊し、本年で通巻808号を数えます。

当初から酪農技術はもとより、社内外の情勢や地域トピックスなどを発信し、情報が貴重だった時代から当社と酪農生産者をつなぐ情報誌として、酪農と乳業の連携に寄与してきました。

現在は、雪印メグミルク（株）酪農部が編集し、酪農部長が発行人となっております。

機関誌「酪農」誌

私のCHALLENGE

（株）雪印こどもの国牧場 飼育部　寺井 晃子

全てが初めての経験だった1年目。
2年目は更なるスキルアップを目指し、人工授精師の資格取得に挑みます。

乳（ミルク）にこだわる

「乳（ミルク）にこだわる」企業として、長年にわたり積み重ねてきた技術によりさまざまなミルクの価値を提供しています。これからもさらに技術を極めることで秘められた未知なる力を引き出していきます。

特集

お客様の健康のために

～乳酸菌研究による機能性表示食品への展開～

当社では、乳酸菌の健康機能を科学し、乳酸菌を通して社会に貢献するために、「ガセリ菌SP株」、「ビフィズス菌SP株」、「ヘルベティカス菌」を中心とした当社独自の乳酸菌・ビフィズス菌が持つ様々な健康機能について研究しています。

その中から「ガセリ菌SP株」が内臓脂肪を低減することについて、ヨーグルトで最初に機能性表示食品として届け出を行ない、販売しています。

更に、食品の有する健康機能を明らかにする観点から北海道大学遺伝子病制御研究所に開設している当社寄附講座「プロバイオティクス・イムノロジー研究部門」では、プロバイオティクス菌に着目し、これらがもたらす疾病予防機能の評価および作用メカニズムの解明を目指した研究を進めています。

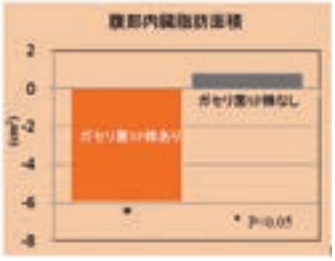
機能性表示食品の届出に使用したエビデンス

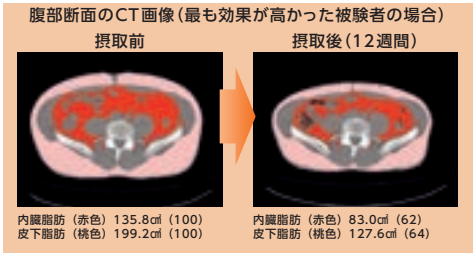
ガセリ菌SP株の内臓脂肪を低減する効果

101名の被験者（男性54名, 女性47名；BMI25～30kg／m^2；20-64歳）にガセリ菌SP株を含む発酵乳100gを12週間摂取していただきました。

12週間の摂取後、コントロール群に比べて有意に内臓脂肪が減少しました。

12週間の摂取により内臓脂肪を低減





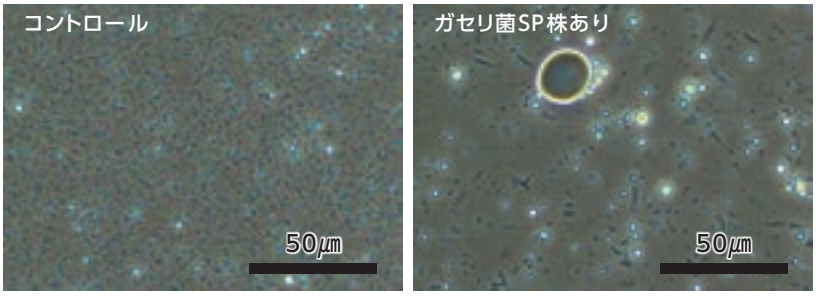
高野義彦ほか、薬理と治療,41,895-903（2013）および当社データ

作用メカニズムについての考察

ガセリ菌SP株はどのようにして内臓脂肪を減らす?

ガセリ菌SP株は脂質エマルジョンの粒子径を増大させる、という結果が得られております。

このことから、ガセリ菌SP株はヒトの消化器官においてリパーゼによる脂質分解反応を進みにくくし、食事に由来する脂質の吸収を抑制すると考えられます。



顕微鏡写真におけるガセリ菌SP株による脂質エマルジョン径の増大の様子（ラボ実験）

Ogawa et al., Lipids in Health and Disease,14,20-29 (2015)

ガセリ菌SP株を含む機能性表示食品群

2015年4月に新たにスタートした機能性表示食品制度により、ガセリ菌SP株の「内臓脂肪を減らす」という画期的な機能を、パッケージ表示するなどして商品の健康機能としてお客様にお伝えすることができるようになりました。当社ではガセリ菌SP株を含む機能性表示食品を4商品発売しています(2016年6月現在)。

恵 megumi
ガセリ菌SP株ヨーグルト
100g
届出番号:A46

恵 megumi
ガセリ菌SP株ヨーグルト
ドリンクタイプ 100g
届出番号:A48

恵 megumi
ガセリ菌SP株ヨーグルト
アロエ 100g
届出番号:A47

恵 megumi
ガセリ菌SP株
豆乳仕立て 100g
届出番号:A59

届出表示:本品にはガセリ菌SP株が含まれるので、内臓脂肪を減らす機能があります。

届出表示:本品にはガセリ菌SP株が含まれます。ガセリ菌SP株には内臓脂肪を減らす機能があることが報告されています。

・機能性関与成分:ガセリ菌SP株
・食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
・本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。
・本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。

機能性表示食品制度とは

特定保健用食品(トクホ)、栄養機能食品に続く、食品に機能性を表示できる新たな食品表示制度として2015年4月1日に施行されました。「機能性表示食品制度」では、定められたルールに基づき、事業者が食品の安全性と機能性に関する科学的根拠などの必要事項を、販売日の60日前までに消費者庁長官に届け出ることにより、事業者は自らの責任において、商品に機能性を表示することができます。詳細は消費者庁ホームページをご覧ください。

WEB 消費者庁ホームページ
http://www.caa.go.jp/foods/pdf/150810_1.pdf

日本食糧新聞「優秀ヒット賞」を受賞

機能性表示食品としてリニューアル発売した『恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルトシリーズ』は、日本食糧新聞社主催の第34回「食品ヒット大賞」の優秀ヒット賞に選ばれました。リニューアル前と比較し、いずれも3倍以上の売上げを示すなど、お客様からご好評をいただいております。

乳(ミルク)にこだわる新商品の展開

BOTTLATTE
カフェラテ/ロイヤルミルクティー(各400ml)

ミルクでコーヒー・紅茶のおいしさを引き立てた、たっぷりサイズの「ミルクで味わう本格ラテ」です。

キャップつきの容器で、たっぷり、ゆったりとリラックスしながら飲みたいときに自分のペースで楽しめます。

雪印北海道100
クリームチーズ　シャルドネ　6個入り(90g)

北海道産の生乳を100%使用した生クリームにこだわったクリームチーズです。シャルドネ(白ぶどう)果汁を配合し、当社クリームチーズのミルキーでなめらかな口当たりを活かす相性のよい風味でティータイムにぴったりなチーズデザートです。

乳（ミルク）にこだわる～ミルクの機能性研究～

「未来は、ミルクの中にある。」に基づき、ミルクの機能性研究を推進しています。

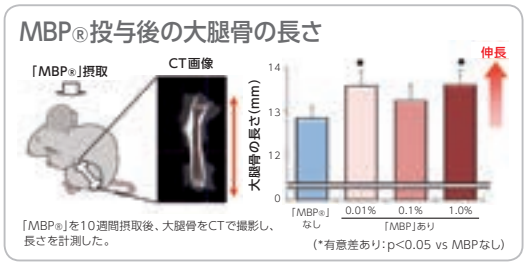
～骨・筋肉の健康のために～　MBP®、ホエイペプチドHW-3

超高齢化社会をむかえ、骨・筋肉の健康を保つことは、活動的な生活を続けていく上で、ますます重要になってきています。それに役立つミルク由来の機能性成分の研究を推進しています。

MBP®

MBP®は、牛乳や母乳に含まれる微量タンパク質であり、骨をつくる骨芽細胞を増やし、骨を壊す破骨細胞の働きを調整する機能などが明らかになっています。

新たに、MBP®が、骨末端を伸ばす効果を有する可能性を、動物試験によって見出しました。



第12回アジア栄養学会議（第69回日本栄養・食糧学会大会と合同）

ホエイペプチドHW−3

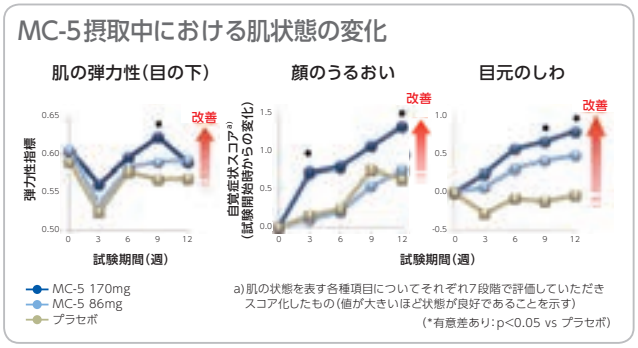
必須アミノ酸を豊富に含む乳由来のホエイ（乳清）タンパク質を、当社独自の技術で調製した消化吸収性に優れた素材であり、骨格筋を形成するタンパク質の合成促進機能などが明らかになっています。

～ミルクの新たな可能性～　ミルクセラミドMC-5

「ミルクセラミドMC−5」は、牛乳中に含まれる特徴的なリン脂質であるスフィンゴミエリンを濃縮した乳素材です。

「ミルクセラミドMC−5」が持つ皮膚保湿機能改善効果について、ヒト試験において肌質を改善する効果と有効量に関する新しい知見を得ました。

また、この「ミルクセラミドMC−5」の摂取が、記憶力などの脳機能を維持または改善する可能性を、動物試験によって新たに見出しました。



第12回アジア栄養学会議（第69回日本栄養・食糧学会大会と合同）

先天性代謝異常症用特殊ミルクの開発と供給について

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が十分にできない患者様のために使用される粉ミルクです。

赤ちゃんは生まれてすぐに血液検査を受けます。フェニルケトン尿症などの代謝異常が発見されると、疾患に応じて、医師の指示のもと特殊ミルクが与えられます。特殊ミルクは、通常のミルクや食事と合わせて使用し、患者様の症状改善のために、食事療法として使用されます。

雪印メグミルクでは、こうした患者様方の治療のために、約50年前に、特殊ミルクを国内で初めて開発し、これまで継続して製造・供給しています。特殊ミルクの供給は、当社が果たしていくべき社会的責任として認識し、今後も品質の確保と安定供給に努力してまいります。（現在、製造・供給している特殊ミルクは、医薬品2品目、登録特殊ミルク6品目です。）

製造・供給している特殊ミルク品目

品目		対象疾患	
医薬品（2品目）	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症	たんぱく・アミノ酸代謝異常
	Leu,Ile,Val 除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症	
登録特殊ミルク（6品目）	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症	
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症	
	Phe,Tyr 除去粉乳	高チロシン血症	
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症	
	Ile,Val,Met,Thr,Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症	有機酸代謝異常
	Lys,Trp 除去粉乳	グルタル酸血症1型	

登録特殊ミルク：
社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター特殊ミルク事務局の指示により製造、供給

私のCHALLENGE

雪印メグミルク（株） ミルクサイエンス研究所 特殊ミルク開発室　鶴巻 真治

医薬品製造業の品質の砦として、確かな品質の特殊ミルクを提供し続けます。

雪印ビーンスターク株式会社の取組みのご紹介

母乳の調査・研究　～その歴史と未来～

はじめに

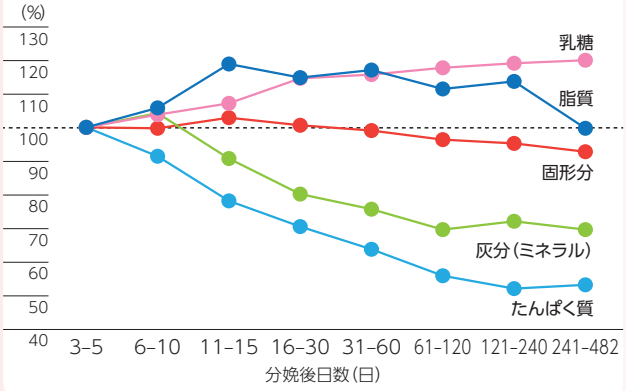
お母さんと赤ちゃんにとって、母乳栄養が最優先されることは言うまでもありません。しかしながら、さまざまな理由で母乳哺育ができない赤ちゃんにとっては、粉ミルクが必要になります。したがって、母乳について徹底的に調査・研究・開発することが、お母さんと赤ちゃんにとって安心できる粉ミルクになります。私たちの60年間の母乳に関する調査研究の歴史と未来に向けた取組みをご紹介します。

全国母乳調査

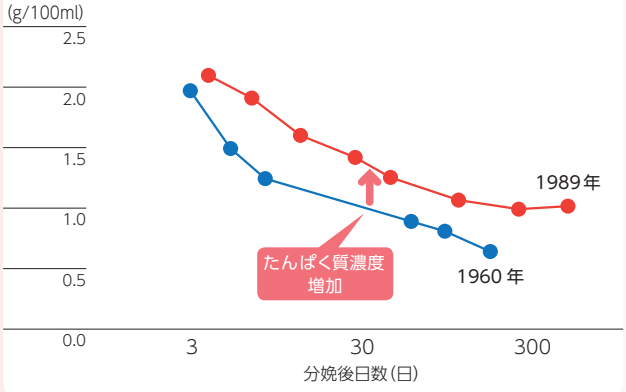
私たちは日本人の母乳を知るために、1960年(昭和35年)、1989年(平成元年)の2回に渡り、全国規模での母乳調査を実施しました。

母乳成分は初乳から常乳と日数を経て大きく変化することが明らかとなりました。また30年前に比べ、お母さんのたんぱく質摂取量の増加にともない、母乳中のたんぱく質濃度も増加していることがわかりました。

母乳成分の泌乳期変化



母乳中のたんぱく質濃度、第1回と第2回調査結果の比較



また、細菌やウイルスなどの感染症から防ぐ「シアル酸」、アレルゲンが体内に侵入するのを抑える「リボ核酸」や「ポリアミン」、などについて分析・研究し、赤ちゃんの免疫機能の発達を助けるこれらの成分をいち早く粉ミルクに反映してきました。

これらの結果は、日本食品標準成分表や日本人の食事摂取基準などに引用され、社会的にも意義のある調査研究結果となっています。

第3回全国母乳調査

第2回目の調査からさらに約30年が経過し、食生活や生活環境なども大きく変化していることから、雪印ビーンスターク(株)と雪印メグミルク(株)は共同で新たに第3回全国母乳調査を開始しました。

今回の調査ではこれまでの母乳成分の分析にくわえ、お母さんの食事調査や生活習慣、赤ちゃんの成長・発達などもあわせて調査します。さらに、その後の赤ちゃんの5年間の成長・発達などを調査します。本調査によって、母乳成分と食事や周辺情報、その後の発育との相関関係が明らかになると考えています。

社名変更

当社は本調査を契機に社名を「雪印ビーンスターク株式会社」に変更し、雪印メグミルクとの共同研究でグループの価値向上を目指して取組みます。さらに、元プロテニスプレーヤー杉山愛様に調査に参加していただき、情報発信のお手伝いをしていただくこととなりました。

おわりに

母乳研究は、母乳を知れば知るほどその奥深さに驚かされます。母乳研究と粉ミルク開発には終わりがなく、今後とも最新の技術を駆使して研究開発を続けていく必要があります。

そして、研究開発の成果をひとつずつ着実に粉ミルクに生かし、「お母さんが安心して育児ができ、赤ちゃんが健やかに育つこと」を支える粉ミルクづくりが私たちの使命と考えています。

私のCHALLENGE

雪印ビーンスターク(株) 生産品質保証部　中村 雄司(左)　園田 祥之(右)

赤ちゃんの「すこやかな笑顔」のために、安全、安心な商品をお届けします。

環境への取組み

雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれる乳（ミルク）を中心とした事業活動を行なう上で、大切な地球環境を次世代に引き継ぐために、グループ全体で環境保全活動を推進しています。

環境マネジメントの推進

雪印メグミルクは、事業活動に伴う環境への影響だけではなく、社会に与える影響も考慮しながら、環境と経営が調和した環境保全活動への取組みを積極的に行なっています。

環境方針

雪印メグミルクは、「法令の遵守」、「環境への配慮」、「環境意識の向上」、「環境情報の開示」の4項目を環境保全活動の基盤として、環境負荷低減の取組みや環境教育の推進などによる環境保全活動を通して社会的責任を果たしていきます。

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。
そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1．法令の遵守
環境法令・条例等を遵守し、法改正等に迅速に対応します。

2．環境への配慮
省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3．環境意識の向上
一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

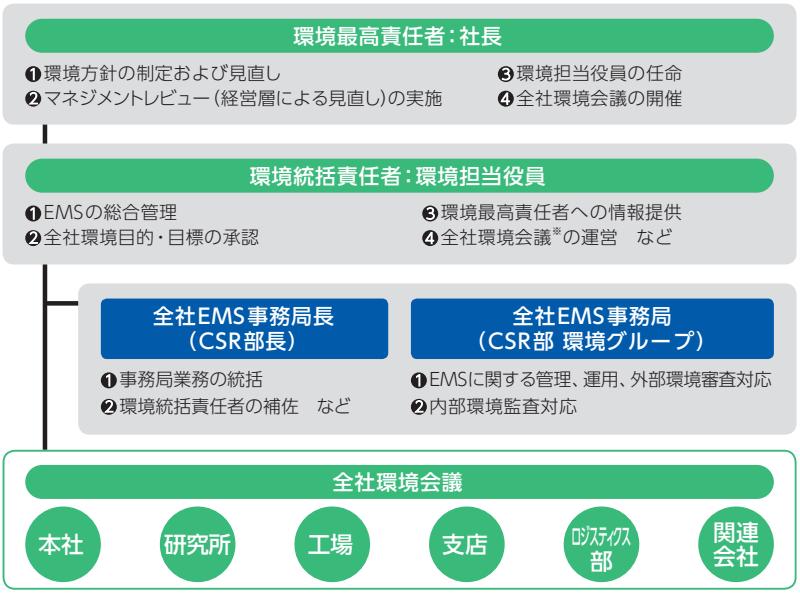
4．環境情報の開示
環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境マネジメント体制

雪印メグミルクの環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員が環境統括責任者としてEMS※1の総合管理を行なっています。また、各部門には環境管理責任者を置き、ISO14001※2に準拠したEMSを推進しています。

※1 EMS：
環境マネジメントシステム、Environmental Management Systemの略。
※2 ISO14001：
組織内で環境保全に取り組むための国際規格。

環境マネジメント体制図



※　全社環境会議：全社環境目標の協議と進捗管理を行なうとともに必要な措置の決定を行ない、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議。

私のCHALLENGE

三和流通産業（株）総務部　須永 亜紀（左）

「縁の下の力持ち」になるべく、知識の向上と心地よい職場作りに努めていきます!!

ISO14001認証の継続

雪印メグミルクは、企業活動が環境に及ぼす負荷を少なくするために環境保全に積極的に取り組んでおり、その成果を内外に客観的に示すために、環境に関する国際標準規格であるISO14001の認証を取得しています。

2015年9月にはISO14001規格が11年振りに大きく改正されました。新しい規格はこれまでのものよりも、環境保全活動と事業活動が一体化した形で運用されることが求められ、認証を継続するためにはEMSの仕組みを大幅に改正する必要がありました。

雪印メグミルクは、「自然の恵みから生まれる乳(ミルク)を中心とした事業活動と地球環境の共生に努める企業」として、早期に新規格への対応に取組み、2016年4月より新たなEMSを全社で開始しました。

10月に予定されている外部審査では、新規格に対応したISO14001の認証を取得し、これからも環境にやさしい企業であり続けることを目指します。

前回の継続審査(左:本社　中:中四国支店　右:福岡工場)

環境法令の遵守

雪印メグミルクは、環境法令や地域条例を確実に守るため、様々な工夫を行っています。

社内イントラネットを利用した環境法令の周知徹底や、全事業所に対する年1回の定期法令遵守評価の他、身近な疑問に対しては「環境Q&A」による事例の紹介も実施しています。

工場・研究所・ロジスティクスセンターでは万一の緊急事態に備え、対応手順や連絡方法を定め、定期的な設備の点検や教育・訓練を実施しています。

イントラネットの条例検索画面

内部環境監査

環境監査には、審査機関による外部環境審査と社内で行なう内部環境監査があり、EMSの運用状況や環境法令の遵守状況を総合的に確認しています。

2015年度より、内部環境監査は監査を多角化し、現場により近い監査員で行なう第一者監査と、本社や他事業所の監査員で行なう第二者監査の体制としました。

第一者監査では施策項目の深堀りによる業務改善効果が現れ、第二者監査では外部の目による法令順守の確認やEMS運用上の課題発見に大いに役立ちました。

内部環境監査(左:みちのくミルク　右:福岡工場)

環境教育

雪印メグミルクでは、社内イントラネットを活用したe-ラーニングにより、全従業員に対して環境教育を実施しています。また各部署に必要な環境教育を個別に計画し環境に対する意識向上を図っています。

内部環境監査員としてのスキルを持つことを目的として、ISO14001審査員資格保有者の監修による、内部環境監査員養成研修を毎年実施しており、各部署における環境活動のキーマンとなる人材の育成に力を入れています。

2015年度は特に生産部門の監査員育成に力を入れ、全工場を対象に現地で研修を実施し、330名の監査員(うち新規養成約100名)を養成しました。

内部環境監査員養成研修(大樹工場)

私のCHALLENGE

グリーンサービス(株) 酪農輸送部　**簗取 正**

ドライブレコーダーを活用しアイドリングストップ、CO_2排出削減に取組み、環境にやさしい運転をします。

地球温暖化防止と循環型社会構築への取組み

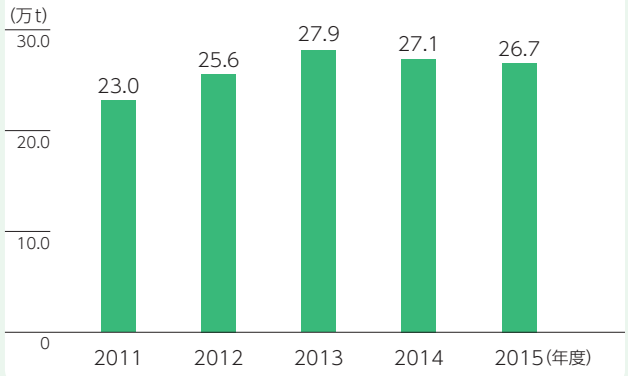
雪印メグミルクは、環境保全をCSRの基盤となる取組みとして捉え、地球温暖化の原因であるCO_2排出量の削減や循環型社会構築に向けた廃棄物の発生抑制やリサイクルの取組みを推進しています。

2016年5月11日現在　過去の実績値については、再精査した結果を反映させております。

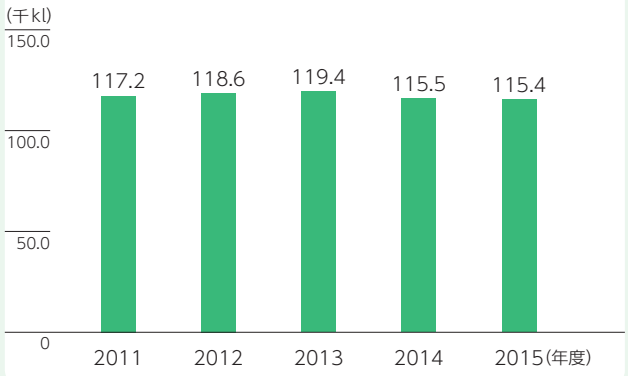
CO_2排出量とエネルギー使用量の推移

- 工場の安定稼働化や使用燃料の重油からガスへの置換などの取組み、全部署の省エネ活動の推進の結果、CO_2の発生量は減少しました。
- エネルギー使用量は前年並みでした。今年度は、エネルギー使用の効率化を更に推進していきます。

CO_2排出量



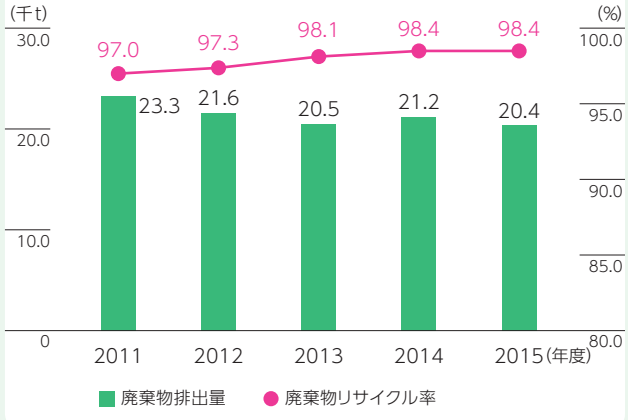
エネルギー使用量(原油換算)



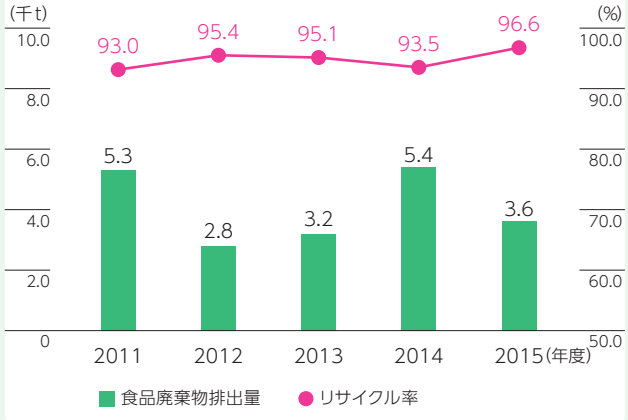
廃棄物・食品廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

- 2014年に新規稼働した乳製品工場や大幅増能した市乳工場の稼働率向上により、廃棄物・食品廃棄物の発生量は減少し、食品リサイクル率も向上しました。
- 今後も、廃棄物・食品廃棄物の発生抑制とリサイクル率の向上に努めていきます。

廃棄物排出量と廃棄物リサイクル率

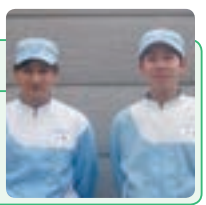


食品廃棄物排出量とリサイクル率



私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 大樹工場 工務課　小幡 直也(左) 木島 貴仁(右)



大樹工場ではLED化、インバーター化、保温により省エネを図るとともにリサイクル率100%を目指し、日々奮闘しています!

事業活動と環境影響

雪印メグミルクでは、事業活動に伴う環境負荷の状況を把握し、使用するエネルギーや水などの資源を効率的に使用し、原材料や包装材料などは環境にやさしいものを開発するなどの取組みを推進しています。

マテリアルバランス

INPUT（事業活動に使用する資源・エネルギー）

原材料

生乳	1,043,000t
油脂	20,200t
乳由来原料	44,900t
その他原料	55,600t

包装材料

紙パック・その他紙・プラスチック・ガラス・アルミほか　61,700t

ユーティリティ

電力	239百万kWh
燃料（原油換算）	56,500kl
用水	11,700千m^3

事業活動

OUTPUT（事業活動に伴い発生する排出物）

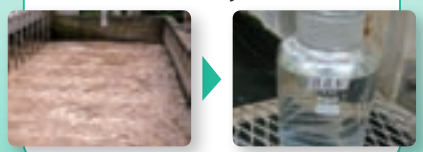
廃棄物

廃棄物	20,400t
（うちリサイクル	20,100t）

廃棄物の約98%はリサイクルして、再資源として有効活用しています。

排水

排水　10,600千m^3



工場から出る「排水」は、微生物によって処理されたきれいな状態で排出しています。

CO_2

工場・研究所・本社・支店由来	267,000t
物流由来	115,500t

食品廃棄物の不正転売事件に関して

1月に愛知県の廃棄物処理業者による食品廃棄物の不正転売事件が、発生しました。

当社では廃棄物を処理する際には、廃棄物処理法に基づく適切な処理委託契約の締結や、マニフェスト制度に基づく処理状況の把握、処理業者の視察を行っています。

また、廃棄の際には、不法投棄や不正転売などのリスクを予防するための各種対策を実施しています。

私のCHALLENGE

（株）エスアイシステム MD事業部 営業部 営業二課　片岡 昂大

入社二年目!一年目で学んだことを最大限活かし、
社会人として更なるスキルアップができるよう頑張ります!

環境保全活動への取組みと支援

生物多様性の考え方（生物多様性さっぽろ応援宣言企業）

雪印メグミルクは環境保全活動をする上で「生物多様性」という考え方を重視しています。

私たち乳業メーカーは、牛や牧草はもちろん、酪農に適した気候や豊かな自然環境があってはじめて成り立つ事業です。そのために、従業員一人ひとりが環境に配慮した事業活動を心がけています。

省エネ活動や廃棄物の削減は全社で行っている代表的な活動ですが、物流では原材料や商品の輸送でモーダルシフトや積載率の向上を、工場ではエネルギーの効率化や廃棄物の削減、排水の浄化処理などを、支店では全営業車でエコドライブの取組みなどを行っています。

管理部門でも、クール・ビズやウォーム・ビズによる冷暖房の抑制や電子文書化の推進による紙の削減に努めています。

また、研究開発では環境に配慮した商品設計を行っています。商品をお届けするための容器・包装は石油資源や森林資源から作られますが、デザートやマーガリンで使用されるプラスチック容器は、商品の安全や品質を守りながら薄肉化や環境にやさしい材質への変更をしています。

牛乳パックの原料となる紙は50年～100年かけて計画的に管理された森林から切り出されますが、家や家具として使われた後の端材を使用しています。

生物多様性の考え方をもとに事業活動全体で環境保全活動を推進するための一環として、雪印メグミルクは2016年2月には札幌市の「生物多様性さっぽろ応援宣言企業」に登録しました。

生物多様性さっぽろ応援宣言企業登録書

カーボンオフセットの取組み（酪農と乳の歴史館）

カーボンオフセット証書

カーボンオフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で得られたCO_2の排出権（クレジット）を購入することにより、企業活動で排出されたCO_2の一部を間接的に削減する制度です。

雪印メグミルクでは昨年に引き続き「北海道 森と大地のカーボンクレジット」の排出権を購入し、当社創業の地である北海道の環境保全に貢献しています。

購入した排出権は酪農と乳の歴史館の使用電力削減に充て、来場の方々一人当たり400gのCO_2をオフセットしています。

酪農と乳の歴史館 PAGE 22

酪農と乳の歴史館説明パネル

環境イベント・キャンペーン等への積極的な参加

雪印メグミルクでは、環境イベントやキャンペーンにも積極的に参加しています。

一例として、夏至～七夕（クールアース・デー）の期間に環境省主催で行われる「CO_2削減／ライトダウンキャンペーン」では、今年も屋外広告、ネオンサイン、スポットライトの一斉消灯や従業員の一斉退社などを実施しました。

本社屋上

大阪道頓堀

また、6月に代々木公園で開催される「エコライフフェア」や12月に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ展」には全国牛乳容器環境協議会（容環協）の一員として参加し、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会（パック連）と協働し、牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、ワークショップなどを通じたくさんの方々に牛乳パックリサイクルの大切さと再生紙利用の重要性について啓発しました。

エコプロダクツ2015

ワークショップで啓発

私のCHALLENGE

いばらく乳業（株）生産部生産管理課　**鈴木 健大**

今年の七夕はクールアース・デーのライトダウンに参加し、家族と天の川を見ます!!

CO_2削減の取組み(阿見工場)

阿見工場では、蒸気の負荷変動によるボイラ発停回数を抑え、ボイラを効率的に運用するためにアキュームレーター(蒸気を貯める装置)を設置し、エネルギーロスの削減を行っています。

アキュームレーター(2基)

空調用ターボ冷凍機

太陽光パネル(207枚)

製造室の空調設備用として、従来の冷凍機に比べ使用電力量を約60%低減できる高効率ターボ冷凍機を4台設置したり、冷却水ポンプにはPMモーター(永久磁石モーター)を採用するなどで電力削減を図っています。

また、工場棟屋上には太陽光パネルを207枚設置し年間約45MWhの発電を行い、東京電力(株)に売電し、自然エネルギーの有効活用を行っています。

環境にやさしい工場作り(別海工場)

工場で使用する蒸気は、ボイラによって作られます。別海工場では従来は重油を燃料とするボイラを使用していましたが、この度重油に比べCO_2の排出量が少なく環境にやさしいと言われている天然ガスを使用する大型貫流ボイラを5基導入しました。

大型貫流ボイラ(5基)

天然ガスは釧路にある液化天然ガス供給基地からローリー車で工場構内に設置した貯蔵タンクへ運び、ガス化して使用します。根室管内では初めての施設で、これからも環境にやさしい工場を目指して、省資源、省エネルギーに努めます。

液化天然ガス
貯蔵タンク

省エネ活動の取組み(みちのくミルク(株))

宮城県大崎市にあるみちのくミルク(株)では省エネ会議を行って従業員の意識を高めながら、省エネの提案や活動の進捗状況をグラフによって見える化し、エネルギー削減の効果を上げています。

製造室の照明設備のLED化、排水処理設備の高効率ブロアー導入などによる安定稼働、コンプレッサーのインバーター化、発酵室の自動制御によるエネルギーロスの低減などに取り組み、電気使用量を大幅に削減できました。これらの取組みに対して、2015年度に省エネルギー管理優良工場として「東北七県電力活用推進委員会委員長賞」を受賞することができました。

充填室照明のLED化

東北七県電力活用推進委員会委員長賞

営業車両の燃費向上の取組み

雪印メグミルクでは、エコドライブ(加減速の少ない運転を心掛けるなど、消費燃料の抑制を意識して運転すること)を推進するため、2015年4月に運転者が燃費を可視化できる燃費測定機を全営業車両に設置しました。その結果、前年度に比べ燃費は4%向上したことに加え、運転者から安全運転の意識が高まったという声も上がっております。今後も燃費測定機を活用しエコドライブを推進することで、燃費の向上と環境にやさしい運転を目指します。

燃費測定機

私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 関東販売本部 首都圏中央支店 乳食品二課 **今井 貴博**

エコドライブによる心にゆとりをもった運転をしたことで、2015年度、首都圏中央支店は無事故を達成しました。これからも社会と環境、私たちに優しい運転を心掛けます。

働きがいのある会社の実現のために

従業員一人ひとりが自らの成長を実感して働きがいを感じられることが会社の発展につながっていると考え、その実現を目指してさまざまな施策を展開しています。

「人材育成=自己実現システム」の基本方針

当社の財産であり発展の原動力は「人」であることから、「人」の成長を通して「組織」の成長へつなげることを念頭に置き、以下の方針、取組みにより「常に挑戦する人」の育成を進めています。

基本方針

❶ 中期経営計画達成に向けた人材の育成を、経営状況を踏まえ、過去の育成手段に拘(こだわ)らず、知恵を出して工夫し推進する。
❷ 階層別研修を通して企業理念浸透をはじめ、中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識を高める。
❸ 公募研修および自己啓発通信教育などによる「挑戦」の機会提供を通して、「自己実現」を支援する。

● 人材の多様性の確保

女性活躍推進

当社は、多様で活力ある、生産性の高い、成長する組織を目指して、『人材の多様性の確保』に取組んでいきます。その取組みの中核に女性活躍推進を位置付け、2015年12月、西尾社長から女性活躍推進宣言が発信されました。

雪印メグミルクグループ「女性活躍推進」宣言(骨子)

1. 「女性活躍」を企業戦略として推進します。
2. 女性社員が主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。
3. 長時間労働を是正し、ワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

「女性活躍推進フォローアップ研修」での発表の様子

さらに、女性活躍推進法に基づき、数値目標、行動計画の策定、社内外への情報開示を行い、女性活躍推進への理解促進や女性社員育成、両立支援等様々な環境整備の取組みを進めていきます。

● 労働生産性の向上と業務改革

企業の持続的成長と従業員のワーク・ライフ・バランスの実現

長時間労働を前提とした働き方を見直し、育児や介護など時間に制約のある従業員でも、最大限能力を発揮できる環境づくりを進めています。取組み内容の例として、事業所単位における時短目標設定や、労働時間についてシステムを活用し「見える化」します。このような取組みを通じて、従業員の「タイムマネジメント」に対する意識の醸成を図っていきます。また、業務の効率化を推進し、労働生産性の向上を図ることで、企業の持続的成長と従業員のワーク・ライフ・バランスを実現していきます。

私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 資材調達部 資材調達グループ　**木下 知穂**

新たな業務、新たな環境、新たな役割、まだまだ毎日が「チャレンジ」の連続です。

人材育成

階層別研修による組織と人材の活性化

「企業理念の浸透」、「中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識」、「部門を越えた積極的な交流」を目的に各階層別研修を実施しています。

職制（主任・副主任）研修

工場・ロジスティクスセンターの職制（主任・副主任）を対象に、職場・ラインの責任者としての知識習得や職場運営のための研修を行っています。2015年度は「パワーハラスメント」をテーマとして実施いたしました。

新入社員研修

新入社員研修プログラムではビジネスマナー、雪印メグミルクグループの歴史・企業理念、会社の仕組み、商品知識、品質保証、衛生管理、コンプライアンスの遵守などを学び、社会人として、雪印メグミルクグループの一員としての基礎力を養います。

また、当社の使命のひとつである「酪農生産への貢献」を理解する一環として「酪農実習」を実施しています。

今後は各階層ごとに必要なスキルを設定し、併せて、通信教育講座の拡充により更なる「個」の成長を図ることができるプログラムの再開発を進めてまいります。

職制研修

酪農実習

雪印メグミルク
自己啓発通信教育講座リーフレット

海老名工場に「技術研修センター」開設

海老名工場に開設されたこの施設は、若手製造技術者を対象に、生産工場で共通する機器類の分解・組み立てを通じ、その仕組みと品質保全、安全作業、5S活動を体験し、現場の技術者の育成と技術伝承を目的として設けられました。

技術研修センターは2016年1月に開所し、少人数で実技を中心とした研修体制で実践しており、この研修を通じて、「ものづくり」への感性・意識を高め、生産技術力の向上に繋がることが期待されています。

作業開始前の安全唱和
「ゼロ災でいこう ヨシ!」

ポンプ分解と仕組みの確認

私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 海老名工場 製造三課　**宮城 仁美**(右から2人目)

「いつも笑顔で!」をモットーに日々業務にあたっています。
「女性目線の5S」に力を入れて頑張ります!

地域・社会とのきずなを深める取組み

地域・社会への取組み

スキージャンプの振興と子どもたちの健やかな成長を応援しています

雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会では女子・ジュニア・少年・成年の部で、中学生からトップ選手までが集います

大会会場では当社選手の紹介パネルや映像、用具の展示により、スキージャンプへの理解に努めました

雪印メグミルクでは、スキージャンプ大会への協賛や各種活動を通じて、スキージャンプの振興に貢献しています。毎年1月に開催される「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」は、ジュニアジャンパーがトップ選手と同じ舞台を経験できる全日本クラスの大会であり、夏季に開催される「雪印メグミルク杯ジュニアサマージャンプ大会」では、参加した子どもたちに五輪メダリスト達によるクリニック(レッスン)も行なっています。

未来のトップジャンパーを育成します

2016年3月には東京都世田谷区の芦花小学校で、前スキー部監督の広報部齋藤課長の指導による五輪体験談、ジャンプ体験、トレーニング指導と栄養士スタッフによるスポーツ食育講話を組み合わせた体験授業を行ないました。これからもさまざまな活動を通じて、スキージャンプの振興と子どもたちの健全育成を応援していきます。

ジャンプ競技に興味を抱いてもらえることを期待します(芦花小学校)

牧場での休日を楽しんでいただきました こどもの国牧場まつり

2015年10月31日、11月1日の2日間、横浜市「こどもの国」で牧場まつりを行ないました。「モー」と鳴いて大声を競う「大声コンテスト」や「早搾りコンテスト」などの新企画他多数のイベントを多くの家族連れにお楽しみいただきました。また、牛乳パック工作教室では、牛乳パックリサイクルの大切さをクイズで楽しく学んでいただきました。

人気イベントの1つ。ソフトクリーム早食い競争

親子で楽しく紙パック工作。リサイクルの大切さを学びました

女子サッカーの裾野を広げる 雪印メグミルクカップ全国レディース大会

2015年5月3日～5日、第28回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ全国レディース大会が長野県菅平高原にて開催されました。本大会はオープン大会ながらも、全国から強豪チームが集まる女子では最大級の大会です。この大会を経験し、後に日本代表となった選手を多数輩出しています。

レベルの高い試合が繰り広げられました

子どもたちの心と身体の成長を願って 雪印メグミルクファミリーミュージカル

2015年8月、大阪メルパルクホールにて夏休みファミリーミュージカルを開催しました。子どもたちの身体と心の成長にも貢献したいという願いで、1985年から実施しています。今回は3回公演で約2,300名のご家族が来場され、会場は熱気に包まれました。

ファミリーコンサート、オリジナルミュージカル"少女ひかりとおはなしの国"でお友達の大切さを学ぶ感動の舞台となりました。

私のCHALLENGE　雪印メグミルク(株) スキー部　(左から)原田監督・伊東主将・岡部コーチ

スキー部は1946年に創部し、今年で70年。
次の平昌オリンピックでのメダル獲得に向け、チーム一丸となって頑張ってまいります。

株主・投資家の皆様への情報開示

IRコミュニケーションの取組み

雪印メグミルクは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには、株主、投資家の皆様のご理解とご支援が不可欠と認識しております。

株主、投資家の皆様と建設的な対話を行ない、長期的な信頼関係を構築していきたいと考えております。

IR体制

当社のIR活動は、財務担当役員が統括し、当該役員、広報部のIR担当者が財務部、総務部と連携して行なっています。

IR担当者は株主、投資家様方との対話を充実させるため、内容に応じて、各テーマの担当部署に情報提供を求め、各担当部署はIR担当者に協力しています。

決算説明会の様子

WEB IRサイト
http://www.meg-snow.com/ir/

IR活動

当社のIR活動として、下記の活動を行なっています。

そのほか、業績、事業内容、経営方針などを当社ホームページ上のIR情報サイトに掲載しています。

内容	対象者	開催時期／概要
決算説明会	アナリスト、機関投資家	年2回(半期毎)
スモールミーティング	アナリスト、機関投資家	年4回(四半期毎)
個別ミーティング	アナリスト、機関投資家	随時
施設見学会	アナリスト、機関投資家	不定期 2015年度は、阿見工場で施設見学会を行いました。
カンファレンス	アナリスト、機関投資家	年2回
個人投資家説明会	個人投資家	不定期 2015年度は、北海道、北陸、関西地区で延べ7回、500名を超える方々にご参加いただきました。

私のCHALLENGE

雪印メグミルク(株) 財務部 (左から)伊藤 史・西川 智恵子・立木 瑞穂

仕事も育児も楽しみながら全力投球!
私たちは今までの仕事を是とせず、効率よく業務遂行していきます!

コーポレート・ガバナンス

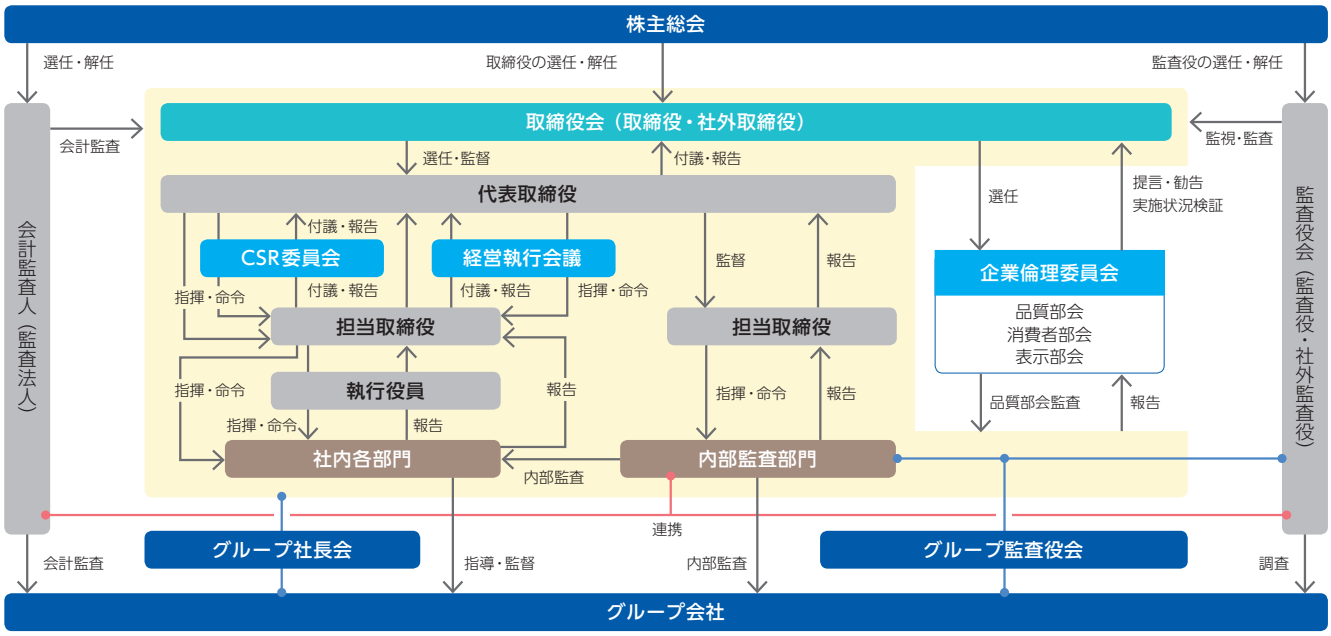
基本的な考え方

当社は、経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。

この基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの強化に積極的に取組み、株主の皆様をはじめとした全てのステークホルダーに対する責任を全うしていきます。

コーポレート・ガバナンス体制図

2016年3月31日現在



「コーポレートガバナンス・コード(2015年6月1日適用開始)」について

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針を2015年11月19日に決定し、当社ホームページに掲載しております。

WEB コーポレート・ガバナンスに関する基本方針
http://www.meg-snow.com/corporate/governance/

コーポレート・ガバナンスに関する報告書

国内証券取引所の規則に従い作成している当社のガバナンス全般にかかる報告書で、「コーポレートガバナンス・コード」の各原則に対応した形で、当社のコーポレート・ガバナンスの考え方や対応状況なども記載しております。日本取引所グループ「東証上場会社情報サービス」および当社ホームページに掲載しています。

WEB コーポレート・ガバナンスに関する報告書
http://www.meg-snow.com/ir/governance/pdf/governance.pdf

監査等委員会設置会社への移行

2016年2月25日開催の取締役会において、2016年6月開催予定の第7回定時株主総会にて承認されることを条件として、監査等委員会設置会社へ移行する方針を決定しました。

企業倫理委員会　— 社外の目 —

企業倫理委員会は、社外の有識者・労働組合の代表および社内委員によって構成されています。この委員会は取締役会の諮問機関として、原則毎月1回の定例委員会を開催しています。そこでは、経営全般に対する「社外の目」による検証や提言がなされ、それらは経営に活かされています。

企業倫理委員会には、品質部会、消費者部会、表示部会の3つの専門部会があります。

第7期企業倫理委員会・専門部会 委員一覧 PAGE 49

企業倫理委員会

品質・衛生管理の徹底を監査しています　[品質部会]

工場の品質管理、衛生管理の徹底およびレベルアップを目的として、その道の専門家である委員が工場へ赴き、監査・視察を実施するとともに、現場従業員との意見交換などを行なっています。工場では、監査での指摘事項や推奨事項に対して改善策を取りまとめ、企業倫理委員会への報告を行なっています。

阿見工場での品質監査

消費者重視経営を実践する取組み　[消費者部会]

消費者部会は、企業理念の3つの使命の1つである「消費者重視経営」を実践するために社外の声を傾聴し、その声を経営に反映させていこうとする取組みを行なっています。部会では、消費者団体の代表者や消費者問題に関する有識者の皆様に雪印メグミルクグループの取組みを紹介し、消費者目線での評価と意見をいただいています。

2015年度は当社グループの7つの取組みの内、関東では「お客様センター」の見学とお客様からのお問い合せなどに対応している従業員との意見交換を実施し、関西では「食育・普及」について、酪農家訪問、工場見学、食育プログラム体験を通して、乳のバリューチェーンを体験していただきました。

関東：お客様センターで電話対応の流れを見ていただきました

関西：子牛の授乳体験をしました

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧 PAGE 50

消費者視点で表示の確認を行なっています　[表示部会]

商品パッケージなどの表示は、私たちと消費者をつなぐ最も重要な情報の一つであると考えています。

表示部会では、消費者視点で商品パッケージなどの表示の点検・確認を行ない、問題があるものについては、会社に提言し改善しています。

またパッケージおよび販促物の表示について当社が独自に定める任意表示マニュアルの改訂に携わっています。

商品パッケージの表示の検討

CSR推進に向けた取組み

雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準

雪印メグミルクグループ行動規範は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的にして、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループの各社が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの全役員・従業員は行動規範と自主行動基準を全ての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

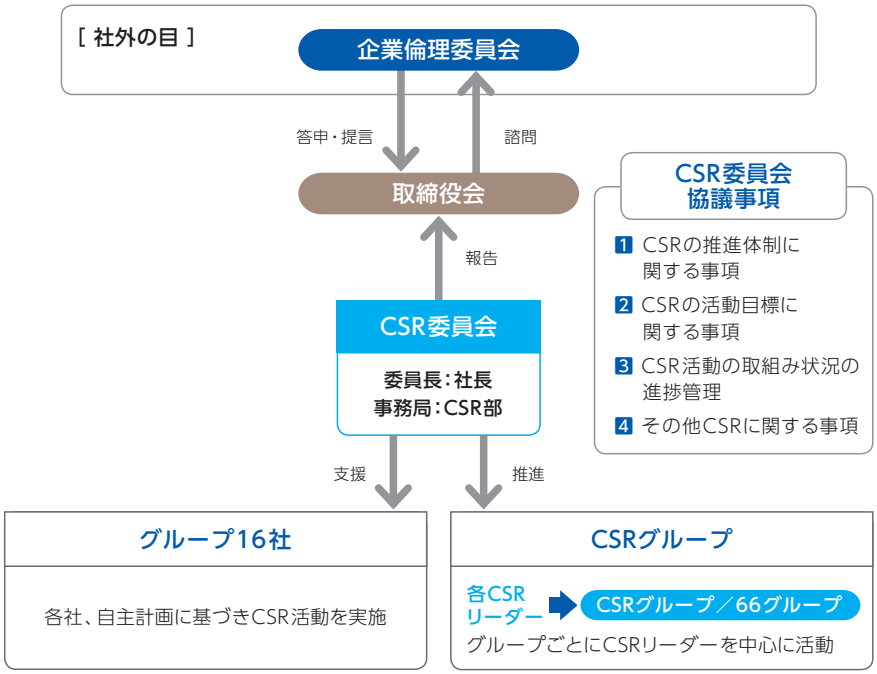
私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切にし、誰からも信頼されるように行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行ないます。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

CSR委員会

雪印メグミルクグループではCSRを推進していく経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、全常勤取締役ならびにCSR部長を委員とし、原則年2回委員会を開催しています。委員会では雪印メグミルクグループが取組んでいるCSR活動の進捗確認・総括と次年度の活動目標および活動方針を定めています。

CSR推進体制図



食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動　～雪印の事件を風化させない～

当社の前身である雪印乳業グループが起こした「雪印乳業食中毒事件」、「雪印食品牛肉偽装事件」を風化させることなく常に教訓とし、食に携わるものとしての責任を強く認識するために、毎年2つの事件が発生した6月と1月にこの活動を実施しています。

2015年度は6月に、雪印乳業食中毒事件について社員から選ばれた5名が、当時のそれぞれの立場での経験を語り共有し、未来に向けて食の責任を果たしていくことの重要性を確認しました。1月には「ポジティブな倫理を考える」と題し、慶應義塾大学大学院の前野教授にご講演いただき、「志の倫理」の考え方に触れ、より良い社会、会社となるために、社員の一人ひとりが幸福であることの大切さを学びました。

2つの事件について PAGE 50

6月、食中毒事件の経験を活かし食の責任を果たしていくことを共有しました

幸福な社員がより良い社会、会社を創ると語る前野教授

活発なミニディスカッションの様子

CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、CSRの確立を目的としてCSRグループ活動を実施しています。この活動は、職場または事業所を一つのグループとし、全社を66グループに分け、そのグループごとにCSRリーダーを中心に全社統一テーマでの討議やCSR活動についての情報共有を毎月行なっています。

また、「雪印メグミルク行動基準」を基本とし、コンプライアンスの徹底を目的とした活動も行なっています。

CSRグループ活動での活発なグループ討議の様子

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役員・従業員は、雪印メグミルク行動基準を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長はCSR担当役員に提出します。

代表取締役3名の宣誓書

CSR経営に関する従業員アンケート

雪印メグミルクでは、従業員の意識・行動が会社の目指す方向に向かっているか、CSR活動の取組みにより従業員のCSRマインドが醸成されてきているか、などについて、アンケートを実施しモニタリングを行なっています。

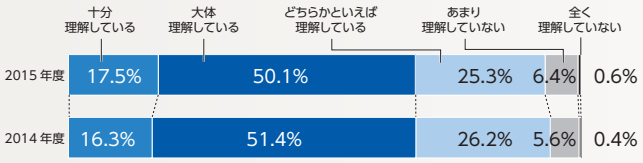
アンケートの結果は、全常勤役員・監査役が読み込み、何回かの討議を経て共有化された後、そこで抽出した課題について対応の方向性を検討しました。

また、その内容を踏まえ、CSRグループ活動にて、全職場で討議を行ないました。

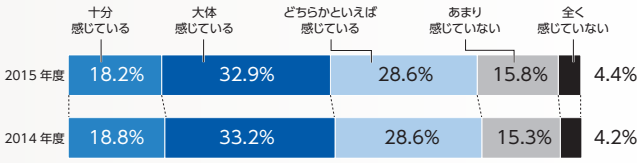
雪印メグミルク「CSR経営に関する従業員アンケート」結果（抜粋）

配布された従業員アンケート

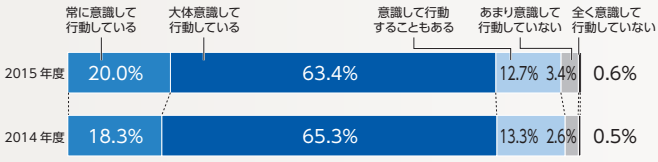
Q. あなたは「雪印メグミルクグループ企業理念」を理解していますか?



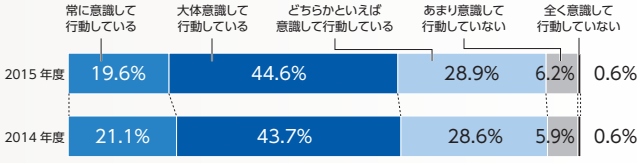
Q. あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか?



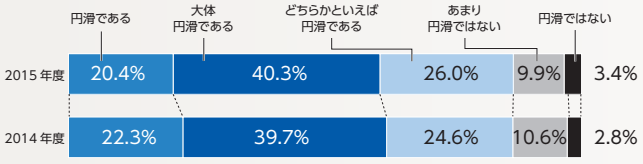
Q. あなたは「雪印メグミルク行動基準」を実践していますか?



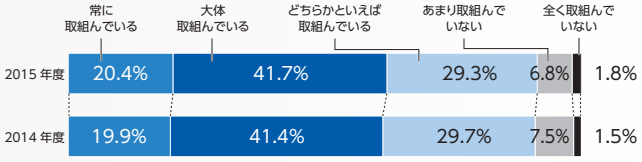
Q. あなたは、日常生活の中で環境保全を意識して行動していますか?



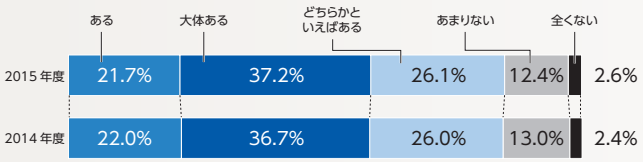
Q. あなたの職場のコミュニケーションは円滑ですか?



Q. あなたは、MSQSのしくみに基づいて品質管理の徹底に取り組んでいますか?



Q. あなたの職場では、誰もが自由に疑問等を問題提起できる雰囲気がありますか?



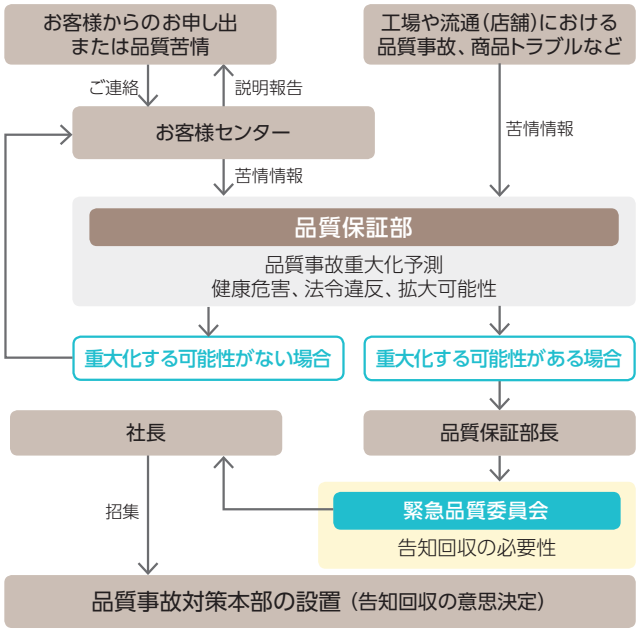
アンケート結果（%）は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

リスクマネジメント体制

品質事故の対応

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。日々のお客様からのお申し出はお客様センターに一元化されます。その内、商品の品質に関わる情報は、品質保証部に伝えられます。同様に工場・店舗からの苦情情報も全て品質保証部に集約されます。その情報の中に健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があると判断された場合には、緊急品質委員会を開催します。緊急品質委員会では、お客様の健康危害を最小限にとどめることを第一の目的とし、告知回収の必要性を含め、対応を検討します。その後、社長を対策本部長とする品質事故対策本部で告知回収の最終決定をします。

危機管理体制（品質事故対応）



内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外（弁護士）ホットライン」を併設しています。2つのホットラインとも、公益通報および公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

当社グループ各社では、機会あるごとに「ホットライン」の活用を呼びかけています。

ホットライン通報件数の推移

（件）

内容	2011		2012		2013		2014		2015	
	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外
人間関係について	8	0	7	2	11	1	2	1	1	1
品質について	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
風土改革について	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
コンプライアンスについて	8	1	3	1	5	1	3	0	2	0
職場での問題行動について	6	0	1	0	5	0	18	1	16	2
社内制度や仕組みへの疑問	9	0	4	1	3	0	11	1	3	0
その他	3	1	2	0	6	0	4	0	1	0
合計	34	2	20	4	30	2	38	4	23	3

社内：雪印メグホットライン[グループ社内通報相談窓口]
社外：社外（弁護士）ホットライン[社外通報相談窓口]

商品の安定供給

雪印メグミルクグループは、東日本大震災の後、広域に及ぶ激甚災害が発生した場合を想定し、そのような中でもお客様へ商品・サービスをお届けするための仕組みを構築しています。

❶ 被災状況をより迅速かつ詳細に把握するために、現行の通信手段に加えて新たな通信手段を導入しています。

❷ 事業を継続するために必要な重要業務を担当する事業所が被災した場合は、重要業務の早期再開に向けて、被災していない事業所での代替対応手順を明確化しています。

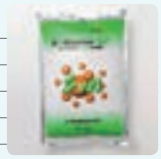
❸ 商品の製造に必要となる原材料は、供給拠点の複数化や代替品の調達などに向けた体制を整えています。

❹ 商品の輸送については、交通インフラおよび取引先の被災状況の把握に向けた連絡体制を構築するとともに、配送要員・車輌・燃料確保に向けた体制を整えています。

雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

グループ各社でもCSRリーダーを中心にCSR活動を推進しています。

雪印種苗(株)



設立	昭和25年12月
資本金	4,643百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	赤石 真人
事業内容	種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究

人事総務部
総務課長
山崎 伸明

すべての行動規範である「雪印種苗行動基準」を従業員一人ひとりへ浸透・定着させ、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)においてバランス良く活動していきます。

八ヶ岳乳業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	60百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	長野県茅野市
代表者	秋元 毅一郎
事業内容	牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業

経営管理部部長
小口 穣

今年、諏訪の地では御柱大祭を迎えました。当地に設立60年を経過する当社においても、地域に根差した企業として「食の安全・安心」はもとより環境保全に貢献します。

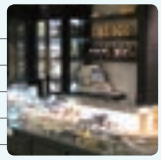
いばらく乳業(株)

設立	昭和34年1月
資本金	118百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	茨城県水戸市
代表者	川﨑 浩
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売

製造2課長
小山 弘美

「健康・安心・安全」の価値を大切にしながら食文化の向上・発展を目指し、「いばらく」に集う人々との調和・つながりを深め社会に貢献してまいります。

チェスコ(株)

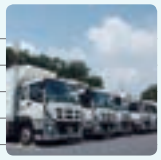


設立	昭和32年3月
資本金	472百万円
グループ計持株比率	90.9%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	本村 直之
事業内容	ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売

総務部長
太田 昭彦

世界からの美味しいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチェスコの使命です。厳選したナチュラルチーズをとり揃え、全国のショップで皆様のお越しをお待ちしております。

直販配送(株)



設立	昭和55年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都渋谷区
代表者	田邉 良一
事業内容	共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業

CSR推進部長
忍田 行廣

チルド物流36年の経験を生かし、安心品質物流で社会貢献するとともに、明るく元気な職場づくりを進めます。

(株)クレスコ

設立	昭和23年8月
資本金	38百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都北区
代表者	小林 弘明
事業内容	食品包装資材、菓子類などの仕入販売

取締役
阿部 潤一

当社は、60年余の包装資材の取扱いで培った知識やノウハウに基づいて、経済や環境へ配慮した提案を継続的にかつ誠実に行なうことで、社会に貢献していきます。

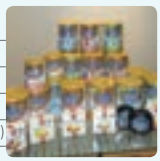
(株)エスアイシステム

設立	平成9年1月
資本金	400百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	齋藤 孝宣
事業内容	チルド・フローズンを中心としたベンダー、マーチャンダイジングと共配センター運営事業

管理部長
町田 良克

従業員一人ひとりにCSRの理解を深めてもらうために、社内報での情報発信や研修に取組んでおります。

雪印オーストラリア(有)

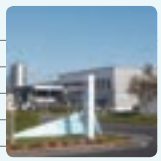


設立	平成4年12月
資本金	22百万A$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	福迫 忠己
事業内容	育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入

管理部長
来栖 淳

オーストラリアから安全・安心な粉ミルクや白カビ系チーズなどの商品をアジアおよび豪州国内にお届けすることにより、社会に貢献してまいります。

みちのくミルク(株)



設立	平成8年10月
資本金	467百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売

取締役
総務部長
庄子 慶之

当社では、牛乳やヨーグルト等の製造を見学することができます。また、毎年地元で開催される「政宗公まつり」や「おおさき食楽まつり」に参画し試飲活動などをしております。

三和流通産業（株）

設立	昭和29年1月
資本金	450百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹島 昭一
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業

取締役
業務部長
西口 幸雄

CSR経営をベースとした事業活動により、美味しい食品をお客様にお届けして、皆様の「食べる喜び」に貢献していきます。

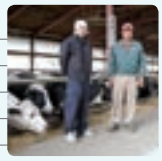
ニチラク機械（株）

設立	昭和29年4月
資本金	50百万円
グループ計持株比率	67.6%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	原田 勉
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス

総務部長
斉藤 宏司

「酪農・乳業への貢献」を目的として、六次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しているエンジニアリング会社です。

（株）ロイヤルファーム



設立	平成13年2月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	48.5%
本社所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男
事業内容	肉用牛の生産・販売

業務部長兼
指導部長
西井 信

子会社の直営3牧場（（株）ペンケル牧場と（株）RF青森牧場と岩手牧場）と共に7,300頭の肥育牛を飼養し、「安全・安心の美味しい牛肉」となるよう目指し取組んでいます。

雪印ビーンスターク（株）

設立	平成14年8月
資本金	500百万円
グループ計持株比率	80.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	平田 公孝
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売

部長
玉本 裕一

60年続く母乳研究から開発された「安心して育児ができる粉ミルク」や機能性食品などの提供により、家族の健康といきいきした暮らしに役立てるよう取組んでまいります。

グリーンサービス（株）

設立	昭和55年11月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都調布市
代表者	菅原 尚則
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業

取締役
業務部長
佐藤 勇

酪農家から生乳の集荷、クーラーステーションへの輸送、殺菌乳の飲料メーカー工場への搬入を担い酪農家と消費者を結ぶ懸け橋となれるよう日々、頑張っています。

（株）雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	手島 隆二
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営

総務企画部長
山口 雅也

自然に親しみ、動物たちとふれあうことができると共に、関東地区唯一の特別牛乳を味わうことが出来ます。

台湾雪印（株）

設立	平成4年12月
資本金	7百万NT＄
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	台北（台湾）
代表者	小原 康嗣
事業内容	育児用粉乳、乳製品等の輸入・販売

営業部
営業企画課
柯 静如

台湾で50年、お子様の健やかな成長を願って常に安全な商品をお届けしています。小児医療の発展のための奨学金や福祉施設への寄付などの社会貢献にも努めています。

（株）雪印パーラー

設立	昭和36年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	小山内 薫
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売

管理部長
首藤 俊昭

創業以来60年、札幌市民はもとより日本全国の方々に愛されてきた雪印パーラーです。いままでも、これからも安全・安心で美味しいメニューを提供していきます。

甲南油脂（株）

設立	平成4年7月
資本金	100百万円
グループ計持株比率	51.0%
本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	遠藤 悟
事業内容	マーガリン・チーズ等乳製品の製造販売

総務部長
川畑 誠一郎

マーガリン・チーズ等乳製品の製造販売会社です。業務用マーガリン・チーズを中心に製造していますが、神戸の海に面した立地であり環境負荷の削減に取組んでいます。

（株）YBS

設立	昭和46年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	國本 温史
事業内容	ビル総合管理、警備業、建築業務、損害保険代理業、人材派遣、営業・管理・生産品質等の各種ビジネスサポート業務

常務取締役
坂口 高司

CSRアンケートの結果を踏まえ、職場のコミュニケーションを基本として、日常業務に直結した活動を推進します。

道東飼料（株）

設立	平成13年7月
資本金	300百万円
グループ計持株比率	60.0%
本社所在地	北海道釧路市
代表者	大久保 修市
事業内容	配合飼料の製造

品質保証室
今田 裕之

常に安全・安心で高品質な養牛用飼料・代用乳を生産して畜産農家にお届けし、安心しておいしい牛乳・牛肉を生産して頂けるよう日々全社員一丸となって頑張っております。

ここに掲載した情報は2016年6月1日現在のものです。

ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比

2010年11月に発行されたCSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引」に掲げられている7つの中核主題ごとに「CSR活動報告書2016」に掲載している取組み内容を整理しました。

7つの中核主題	当社取組み内容	
1. 組織統治	雪印メグミルクグループ企業理念とCSR経営	P.1
	コーポレート・ガバナンス体制	P.39
	企業倫理委員会の設置	P.40
	CSR経営に関する従業員アンケート	P.43
2. 人権 3. 労働慣行	人事基本方針	P.35
	人材育成	P.36
	人材多様性の確保	P.35
	内部通報制度	P.44
4. 環境	環境方針	P.29
	環境マネジメント体制	P.29
	ISO14001認証の継続	P.30
	内部環境監査	P.30
	CO_2排出量とエネルギー使用量の削減	P.31
	廃棄物・食品廃棄物の削減とリサイクルの推進	P.31
	環境保全活動紹介	P.33
5. 公正な事業慣行	雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準	P.41
	CSRグループ活動の実施	P.42
	「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施	P.42
6. 消費者課題	雪印メグミルク品質保証方針	P.17
	雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)	P.15、17
	危機管理体制(品質事故の対応)の構築	P.44
	企業倫理委員会　消費者部会	P.40
	お客様センターの設置と運営	P.17
	お客様満足向上ミーティングの開催	P.18
	お客様モニターの実施	P.18
	食育活動	P.20
	酪農と乳の歴史館、工場見学の実施	P.22、48
7. コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	酪農生産への貢献	P.21
	地域・社会への取組み	P.37
	スポーツ振興への取組み	P.37

PAGE 15

見学いただける工場・歴史館の連絡先

日本の酪農・乳業に関わる史料

雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館
北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329

牛乳類・飲料・ヨーグルト

雪印メグミルク(株)札幌工場
北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329
(受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で行なっています。)

ナチュラルチーズ

雪印メグミルク(株)なかしべつ工場
北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地
TEL. 0153-72-3281

ナチュラルチーズ

雪印メグミルク(株)大樹工場
北海道広尾郡大樹町緑町35
TEL. 01558-6-2121

牛乳類・デザート

みちのくミルク(株)本社工場
宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1
TEL. 0229-72-2011

プロセスチーズ・マーガリン

雪印メグミルク(株)阿見工場
茨城県稲敷郡阿見町星の里22番地
TEL. 029-829-5236

牛乳類・飲料・ヨーグルト

雪印メグミルク(株)野田工場
千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1
TEL. 04-7122-2246

牛乳類・飲料・ヨーグルト

雪印メグミルク(株)海老名工場
神奈川県海老名市中新田5丁目26番1号
TEL. 046-240-6300

デザート・クリーム

雪印メグミルク(株)豊橋工場
愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79
TEL. 0533-78-3711

牛乳類・ヨーグルト

雪印メグミルク(株)京都工場
京都府南丹市八木町美里紫野1番地
TEL. 0771-43-2150

牛乳類・飲料・ヨーグルト

雪印メグミルク(株)京都工場 池上製造所
京都府南丹市八木町池上古里1番1
TEL. 0771-42-6871

牛乳類・飲料

雪印メグミルク(株)神戸工場
兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1
TEL. 078-912-2121

●工場・歴史館の見学のご案内
工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。

WEB http://www.meg-snow.com/fun/factory/

PAGE 24

酪農諮問委員会 委員一覧

任期:2016年4月1日～2018年3月31日

諮問委員	小泉(こいずみ) 恒男(つねお)	元標茶町農業協同組合 組合長
	黒沢(くろさわ) 寛寿(かんじゅ)	元全国酪農青年女性会議 委員長
	松尾(まつお) 要治(ようじ)	元全国農業協同組合連合会 酪農部長
	鈴木(すずき) 宣弘(のぶひろ)	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
	矢坂(やさか) 雅充(まさみつ)	東京大学大学院経済学研究科 准教授
	小林(こばやし) 信一(しんいち)	日本大学生物資源科学部 教授

PAGE 40

第7期 企業倫理委員会・専門部会委員一覧

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	阿南 久	元消費者庁長官	企業倫理委員会委員長 雪印メグミルク(株) 社外取締役
	森田 満樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の有識者
	河口 洋徳	経営倫理実践研究センター 専務理事	企業倫理の有識者
	小林 俊夫	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
	佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質の専門家
	塚原 典子	帝京平成大学 健康メディカル学部 教授	栄養学の有識者
労働組合	吉田 尊志	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	石田 隆廣	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・秘書室・人事 担当
	城端 克行	取締役執行役員	生産・生産技術 副担当 (生産技術部長委嘱)
	笠松 宏一	取締役執行役員	関係会社統括・機能性 食品事業・CSR 担当

1. 企業倫理委員会・品質部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質部会長 企業倫理委員会委員 兼任
	森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会および 表示部会委員兼任
	中村 優	品質安全推進共同センター (JASMEQ)顧問	衛生管理の専門家 品質部会委員専任
社内委員	田中 宏治	品質保証部長	品質部会専任

2. 企業倫理委員会・消費者部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	阿南 久	元消費者庁長官	消費者部会長 企業倫理委員会委員長 兼任
社内委員	笠松 宏一	取締役執行役員	企業倫理委員会委員 兼任

3. 企業倫理委員会・表示部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	森田 満樹	消費生活コンサルタント	表示部会長 企業倫理委員会および 品質部会委員兼任
	松崎 政夫	元日本生活協同組合連合会 商品政策・安全管理担当	商品表示の有識者 表示部会委員専任
社内委員	小西 寛昭	取締役執行役員 研究開発部長 委嘱	表示部会委員専任
	保倉 一雄	マーケティング部長	表示部会委員専任
	足立 晋	CSR部長	表示部会委員専任

● 2016年度 企業倫理委員会提言

2016年度のスタートに際し、取締役会から企業倫理委員会への諮問に対し、下記の通り提言いたします。

1. 消費者重視経営に関すること

(1)重要なステークホルダーである消費者との対話(ダイアログ)の場を充実させましょう。

(2)引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実にこたえていきましょう。

(3)商品の表示や広告等では、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。

2. 「食の安全・安心(品質管理)」「企業倫理(コンプライアンス)」の徹底に関すること

(1)従業員一人ひとりの製造技術、保全技術、衛生管理、検査分析技術のレベルアップのため、工場での後継者育成を見据えた教育・研修を充実させましょう。

(2)品質トラブルおよび品質苦情を従業員で共有し、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。

(3)5Sは品質管理の基本であり、5Sガイドラインの内容にそった活動を全員参加で継続して取り組みましょう。

(4)「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践していきましょう。

3. 企業風土及び組織・人材の活性化に関すること

(1)社内のコミュニケーションを深めるように意識し、工夫しましょう。

(2)一人ひとりが積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある職場をつくっていきましょう。

(3)全ての従業員がいきいきと活躍できるよう環境を整備し、ダイバーシティを推進していきましょう。

4. その他、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)に関すること

(1)全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、CSRの確立に向け、行動していきましょう。

●企業倫理委員会実施状況

対象期間:2015年4月～2016年3月

1. 定例委員会(12回)

(1)主な討議事項

・2015年度企業倫理委員会提言内容について
・「雪印メグミルク株式会社CSR経営に関する従業員アンケート」内容と結果対応について
・「雪印メグミルクグループ会社CSR社員アンケート」内容と結果対応について
・「雪印メグミルクグループ活動報告書2015」作成について

(2)主な報告事項

・経営概況報告(四半期毎)
・CSR委員会実施内容(第13・14回)
・商品の自主回収の実施について
・「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施内容
・第6期お客様モニターの実施、お客様モニター同窓会について
・企業倫理委員会提言に対する取組み状況について

(3)月次定例報告事項

・部会実施報告(品質部会、消費者部会、表示部会)
・苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
・広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
・CSRグループ活動実施概要
・ホットライン通報状況および対応状況について

PAGE 6、42

2つの事件について

●雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で発生した停電事故により、製造された脱脂粉乳が汚染され、それを原材料として製造した脱脂粉乳を大阪工場で低脂肪乳等の原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えました。

●雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を、国産牛肉と偽って申請し、交付金を不正に受給した詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

PAGE 40

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧

団体名　50音順

関東	関西
主婦連合会	NPO法人 京都消費生活有資格者の会
全国消費者団体連絡会	NPO法人 コンシューマーズ京都(京都消団連)
全国消費生活相談員協会	関西消費者協会
東京消費者団体連絡センター	全大阪消費者団体連絡会
東京都消費者月間実行委員会	なにわの消費者団体連絡会
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	奈良県生活協同組合連合会
日本生活協同組合連合会	日本消費経済新聞社
横浜市消費者団体連絡会	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 西日本支部

人事データ

2016年3月31日現在

	2014年度	2015年度	範囲または時点
社員数(連結)	4,875名	4,823名	連結会社計
社員数(単体)	3,091名	3,005名	雪印メグミルク(株)
男性	2,677名	2,580名	
女性	414名	425名	
女性管理職	13名	16名	雪印メグミルク(株)(出向者を含む)
女性管理職比率	2.0%	2.5%	
平均年齢	39.4歳	39.3歳	雪印メグミルク(株)
平均勤続年数	12.4年	13.0年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.98%	1.92%	雪印メグミルク(株)
育児休職利用者	29名	30名	2015年度利用者数 雪印メグミルク(株)(出向者を含む)
内育児休職男性社員利用者	4名	14名	
子育て支援休暇利用者	35名(のべ97日)	44名(のべ127日)	
看護休暇制度利用者	80名(のべ361日)	97名(のべ468日)	
短時間勤務制度利用者	33名	35名	

雪印メグミルクグループ「CSR活動報告書2016」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「CSR活動報告書2016」をご覧いただき、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

● 雪印メグミルク お客様センター
0120-301-369 (9:00～19:00 年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開いたします。

● CSRの取組み > CSR活動報告書
http://www.meg-snow.com/csr/report/

ステークホルダーメッセージ

生産者と消費者を結ぶ架け橋となって!!

早いもので、あれから5年の節目を迎えました。2011年3月11日、あの時、突然、東北を襲った大地震、大津波、そして東京電力福島第一原発事故の追い討ちと、東北太平洋側は地獄絵図を見ているようでした。特に東北の7割の生乳を生産する太平洋側3県の酪農乳業は壊滅状態でした。一時はこの東北から酪農乳業が消えてしまうのではないかとさえ思ったほどです。未だに震災・原発事故の爪痕や放射性物質への対応など復興道半ばですが、当時を振り返れば全国の酪農家を始め乳業各社、関連団体より暖かい支援の手を差しのべていただきました。この紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。

また、貴社におかれましても、当時、東北産生乳に対する風評被害が、日を追うごとに拡大しているにも関わらず、率先して被災地の生乳を受け入れていただき本当に心強く感じました。残念ながらその風評被害は今も続いています。

一方、2015年度国勢調査では、震災・原発事故の影響もあり、東北地域の総人口は900万人を割るなど、今後も人口の減少傾向が続く中、如何にして東北地域内の牛乳需要を維持していくべきかが課題と考えております。

加えて、昨今の酪農を取り巻く環境は、流通飼料価格の高止まりやTPP合意による先行き不安等の外的圧力、更には乳用牛資源の減少による生産基盤の縮小が加速し生産回復を困難な状況にしております。

現時点でこれらに対応するための即効薬はなかなかありませんが、東北の生乳販売を預かる立場から一言申し上げれば、東北地域内の生乳需要を維持しながら共に発展することを目指し、貴社との信頼関係をこれまで以上に築くことが大切だと考えております。

その一つとして、東北にある貴社の子会社工場を貴社と一緒になって更に盛り立て、東北地域内の生乳需要の維持拡大に結び付けることができればと思っております。

貴社はこれからも生産者と消費者を結ぶ架け橋となり、牛乳乳製品の優れた価値の創造によって、今後も酪農・乳業界の発展に寄与されることをご期待申し上げ私からのメッセージといたします。

東北生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長

伊藤 一成 様

土台固めを進めつつ、未来志向で進みましょう。

以前、2000年に起きた集団食中毒事件に関する研究調査で貴社と関わりました。問題を正面から受け止め、変わろうと努力されている様を目の当たりにし、感銘を受けました。あの事件から得られた教訓やその後の貴社の取り組みは他社や他組織にとっても有益なもので、それらは日本におけるコンプライアンス活動の進展に大きく寄与してきたのではないかと感じています。

そうした土台固めを着実に進められている一方で、貴社は学校や地域社会における食育活動にも積極的で、少子高齢化が進む我が国における健康増進にも貢献していると思います。関東学院大学でも「関東学院大学ワクワク計画」の一環として、毎年、「チーズセミナー」と「ヨーグルトセミナー」を開いていただいております。申し込みの受付開始とともに定員が埋まるという大人気の講座で、食生活が乱れがちな大学生にとって楽しく学べる良い機会となっています。

私どもの大学も2007年に大きな不祥事を起こしました。失った信頼を取り戻すには長い時間と努力が必要です。しかしながら、物事に誠実に取り組んでいることをきちんと評価して下さる方もいらっしゃいます。お互いに、油断せず、未来志向で進んでいければと思っております。

関東学院大学　副学長・経済学部教授
経営倫理実践研究センター上席研究員

小山 嚴也 様

酪農業の持続発展と消費者の笑顔のために

東京都消費者月間実行委員会
事務局長

中村 紀子 様

わたしは、2年間消費者部会に参加させていただきましたが、牧場や海老名工場見学、官能検査体験、消費者アンケートを基にしたリーフレットの作成など、さまざまな経験と勉強をさせていただきました。消費者として、普段知りえないことを多く学ばせていただき、貴重な体験でした。特に、「お客様センター」はとても静かで、消費者からの問い合わせにコミュニケーターがPC入力しながら適切な対応をしています。どんな相談相手もがっかりさせない工夫と気配りにあふれていました。新商品はもちろん全国の販売情報や新しいCMもチェックが必要だということです。窓口対応で企業の姿勢が分かるとも聞いています。信頼に値すると感じました。

東京都消費者月間事業においては、10月に行われた交流フェスタに出展いただき、来場した都民に向けて、牛乳ができるまでをわかりやすく展示説明いただいたことに感謝いたします。身近にある牛乳やバター、チーズがまさに乳牛の命をいただくものであることを多くの人が感じたのではないでしょうか。

これからも安全・安心と品質を守り続ける企業であってほしいと思います。また、日本の酪農業の持続と発展のために、生産者と消費者をつなぐ役割を担っていただきたいです。多くの社員、関係者の声や意見を尊重し、雪印メグミルク(株)の商品を口にするすべての消費者と、生産にかかわる酪農家が笑顔になれるような堅実な経営を今後も望みます。

“思い”を伝えるのは難しい。でも、伝えたい“思い”があるのは嬉しい。

雪印ビーンスターク株式会社
東日本統括支店
首都圏営業所長

山田 美穂子 さん

雪印ビーンスターク(株)は乳児用粉乳を中心に妊婦、乳幼児、そしてシニア・介護用商品の開発から製造・販売を行なう会社です。

私たちは、赤ちゃんを持つお母さんお父さんに「安心して育児をしていただくために、すこしでも母乳に近いミルクをお届けする」という“思い”を持っています。そして、その“思い”の基盤となるのが、雪印乳業時代から半世紀以上にわたって続けている「母乳研究」です。

「母乳は赤ちゃんにとって最良の栄養」これは誰もが認める事実であるとともに、我が子は母乳で育てたいと思っているお母さんが多いのも実際です。

ただし、全てのお母さんが母乳育児を出来るわけではありません。日本の母乳育児率は生後2か月時点で約5割強(乳幼児身体発育調査:厚生労働省より)です。残り5割の赤ちゃんは粉ミルクを必要としています。

そんな時「母乳があげられなくても、安心して使える粉ミルクがあるから大丈夫」と思っていただける。それは私たちが永年「母乳研究」を続ける理由であり、目指しているものです。

商品にこめた“思い”をお客様に伝える事は決して簡単ではありませんが、一方で、伝えたい“思い”があるのはとても嬉しいことです。

当社では、昨秋から第3回全国母乳調査を開始しました。全国のお母さん、産婦人科施設様のご協力で実現できる調査です。最新の調査により、母乳の持つ力がさらに解明され、赤ちゃんのすこやかな成長をサポートする商品が生まれることが期待されます。

2016年4月1日から「雪印ビーンスターク(株)」として、伝えたい“思い”はさらに強いものになります。

未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク

この報告書は、適切に管理された森林から生まれた「FSC®認証紙」を使用し、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物油インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷で印刷しています。また、本文用紙には「森の町内会」による間伐に寄与する紙を使用しています。

2016年6月発行